

工事説明書（設定編）

VoIP 対応 IP電話機

VoiceCaster [IP-36N-ST101C]

お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。

この電話機の取り扱いに際して、電話交換システムやIPネットワークに関する知識を必要とすることがありますので、必ず販売店もしくは通信システム及びネットワーク管理者の指示に従ってください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この『工事説明書』には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

お願い

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口へお申しつけください。
- この通信システムは、日本国内用に設計されておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品および本書の一部または全部の無断改変、無断転載、無断複写を禁止いたします。
- 本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
- 文中の会社名・製品名は、各社の登録商標または商標です。
- 本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規則並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

NAKAYO



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- AC電源アダプタを使用する場合、別売品のAC電源アダプタ以外は使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となることがあります。すぐにAC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜き、LANケーブルを外し、煙が出なくなるのを確認して、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にご連絡ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 本製品を落としたり、倒したりするなどの衝撃を与えないでください。万一、本製品を破損した場合は、すぐにAC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜き、LANケーブルを外し、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- ぬれた手で本製品やAC電源アダプタ(別売品)に触れないでください。感電・故障の原因となります。
- 本製品に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。万一、本製品に水が入った場合は、すぐにAC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜き、LANケーブルを外し、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
- 本製品内部に、金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐにAC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜き、LANケーブルを外し、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 本製品のそばに、花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、また小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- AC電源アダプタ(別売品)のコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また重い物を載せたり、加熱したりすると、コードが破損します。AC電源アダプタ(別売品)のコードが破損した状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがありますので、すぐにAC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜き、LANケーブルを外し、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にて修理を依頼してください。
- AC電源アダプタ(別売品)をコンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。またAC電源プラグに金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。
- AC電源プラグの刃および刃の取付面にほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。
- 異常音がしたり、本製品やAC電源アダプタ(別売品)が熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがありますので、AC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜いて販売店もしくは弊社サービス・保守窓口にご連絡ください。
- AC電源アダプタ(別売品)に水がかかった場合は、すぐにAC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜き、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にご連絡ください。
- 電話機のケースを開けたり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電・故障の原因となることがあります。また内部の点検、調整、清掃、修理は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にて作業をご依頼ください。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- AC電源アダプタ(別売品)はAC100Vのコンセントに接続してください。それ以外のコンセントに接続すると、火災・感電・故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 直射日光の当たるところや、暖房設備などの著しく温度が上昇するところに置いたりしないでください。内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。
- 調理台のそばなど、油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また本製品の上に、重いものを載せないでください。バランスがくずれて、倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落下してけが・破損・故障の原因となることがあります。
- AC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜くときは、必ずAC電源プラグをもって抜いてください。コードを引っ張ると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、AC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜いて、ご使用を控えてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。
- 本製品を移動、もしくは、お手入れする場合は、安全のため必ずAC電源アダプタ(別売品)や配線コードを抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。
- 本製品に水滴がついたら乾いた布で拭き取ってください。
- 電話機やケーブルを熱器具に近づけないでください。電話機やケーブルが溶けて、火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 電話機を長時間使用されないときは、安全のためLANケーブルを抜き、AC電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電話機の裏側部分にゴムを使用しております。ゴムとの接触面がまれに変色することがあります。
- 壁掛け使用時は落下にご注意ください。けがの原因となることがあります。
- 壁掛け用に取付ける場合は電話機の重みにより落下しないよう堅固に取付け・設置してください。けがの原因となることがあります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
- 本製品廃棄時は、販売店にご相談ください。
- AC電源アダプタ(別売品)の接続を行うときは、必ず接続先の確認をしてください。AC電源アダプタ(別売品)のHUBポートにはHUB、TELポートには本製品を接続してください。TELポートに、本製品以外のネットワーク機器を接続すると、故障をまねく場合があります。

お願い

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- 本製品と他のエレクトロニクス機器が近くに設置されている場合、お互いに悪影響をおよぼすことがあります。影響のあった場合は、それぞれの機器との設置間隔をあげたり、電源を別のコンセントに接続するなどの措置を講じてください。
- 本製品に接続したケーブル類を、踏みつけたり、強い力で引っ張ったりしないでください。本製品や他に接続している機器、およびケーブルの故障・誤動作の原因となります。
- 本製品をベンジン・シンナー・アルコール・熱湯などで絶対に拭かないでください。変色や故障の原因となります。布等で乾拭きしてください。
- 本製品のPCポートはオートネゴシエーションです。パソコンの通信モードをオートネゴシエーションに設定したあと、本製品と接続してください。パソコンの通信モードは、本製品とパソコンを接続したまま、他の通信モードへ変更しないでください。
- 本製品のLANポートはオートネゴシエーションです。HUBの通信モードをオートネゴシエーションに設定したあと、本製品と接続してください。HUBの通信モードは、本製品とHUBを接続したまま、他の通信モードへ変更しないでください。
- AC電源アダプタ(別売品)のHUBポートには、10BASE-T、100BASE-TX対応以外のネットワーク機器を接続しないでください。
- まれにLANポートもしくはPCポートのリンクが成立しない場合があります。この場合はHUBもしくはAC電源アダプタ(別売品)をコンセントから抜き、10秒以上経ったあとに差し込んでください。LANポートの場合、上記操作を行ってもリンクが確立しない場合は、LANポートの設定をオートネゴシエーション以外の設定に変更して再度接続してください。その際は、HUBと本製品の通信モードを同じ設定にする必要があります。設定が異なる場合、正常に使用できません。
- 硫化水素の発生する場所(温泉地など)や塩分の多いところ(海岸など)でお使いのときは、電話機の寿命が短くなることがあります。

目次

1. 本書の読み方	5
2. 製品の概要	6
2.1 製品概要	6
2.2 仕様諸元	7
3. 各部の名称とはたらき	9
4. 準備	16
4.1 設置手順	16
4.2 必要な情報の整理	17
4.3 セットの組立	23
4.4 データの投入	27
4.5 ネットワークへの接続	27
4.6 サーバへの接続・通話機能の確認	28
5. データ設定(電話機からの設定)	29
5.1 データ設定の方法 (保守者モード・ユーザモード)	29
5.2 設定画面の構成	33
6. データ設定(パソコンからの設定)	35
6.1 データ設定の方法 (設定ファイルの編集と書込み)	35
7. ファームウェアのアップデート	38
8. 付録	39
8.1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名	39
8.2 ダイアルボタンで文字を入力する	56
8.3 付加機能と特殊設定	58
8.4 VLAN使用形態	59
8.5 RAS機能	60
8.6 SIP メッセージ(to、from、contact ヘッダー)とダイジェスト認証の認証 ID の登録	62
8.7 ハンズフリー送話レベル調整、ハンズフリー受話レベル調整	63
8.8 LCD 表示モードの設定	66
8.9 トラブルシュート	68

1. 本書の読み方

本書は、本製品の設置手順やデータ設定について説明するものです。
本書で使用している記号や表記は、次の通りとなっていますので、内容をよく理解してから本文をお読みください。

●表記について

表記の例	内容
着信	ランプ(LED)の名称を示します。
[転送]	操作するボタンの名称を示します。
(注1)	他の方法や注意を要する事項がありますので、該当する説明をお読みください。

●用語／機能について

語句	内容
SIPサーバ	SIPプロトコルをサポートした通信制御装置で、従来の交換機(ボタン電話主装置)相当の交換制御や音声処理を行います。
GW (ゲートウェイ)	加入電話網(アナログ回線・ISDN回線)をIP電話機に接続するためのインタフェース装置です。本システムのGW装置は、ユーザ拠点に設置されます。
パーク保留機能	SIPサーバ側で通話を保留し、そのグループに属する電話機から応答(保留を解除)することができます。
不在設定機能	離席や外出など電話に出られない場合、本機能を有効とすることで、着信を受付けないようにすることができます。
盗聴防止通話機能	相手の電話機に対して送受されるIPパケット(音声情報)を暗号化することで、通話内容を盗聴されにくくすることができます。 本機能の利用は内線及びVPNで接続される本製品相互で、かつプログラマブルキーに[盗聴防止]ボタンを割付ける必要があります。 また、接続するサーバによっては本機能が使えないことがありますので、通信システムの管理者や工事者に確認してください。
NAT 越え機能	本製品をルータを介してインターネットに接続時、STUN サーバと連携することでルータ情報(WAN 側の IP アドレスとポート番号)を取得し相手端末と通話可能となります。 VPN 回線、VPN ルータを使用しなくても通話が可能となります。 NAT 越え機能をご使用になる際は通信システムの管理者や工事者に確認してください。

●データ設定について

本製品の使用を開始する場合や機能動作を変更する場合は、電話機毎に必要なデータを設定、変更する必要があります。

また本書では、標準的な運用を想定したデータ設定がなされているものとして説明しています。システムによっては、本書の説明と異なることがありますので、通信システムの管理者や工事者に確認してください。

お願い

次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能の停止をまねく内容を示しています。

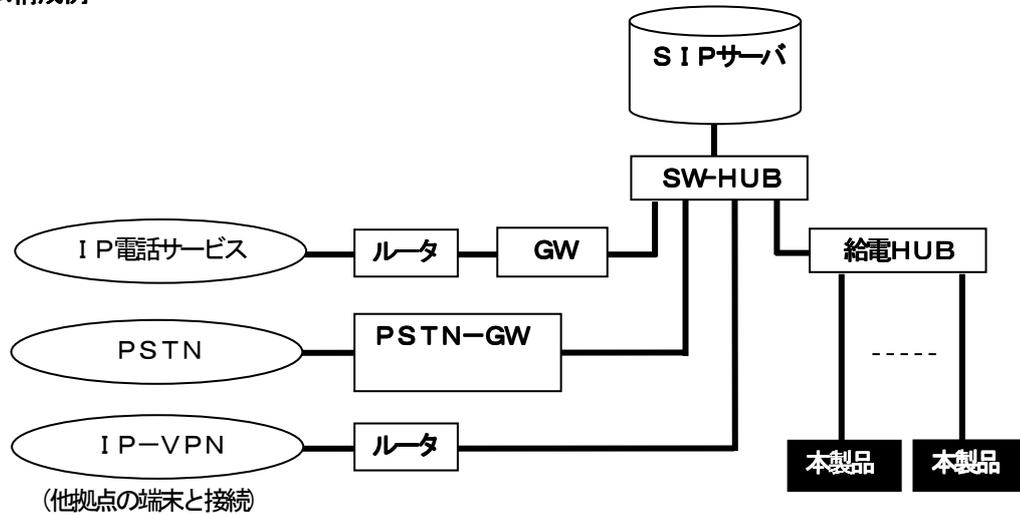
- データを誤って設定すると、本製品の機能が制限されたり、通話ができなくなる等の不都合を生じることがあります。データの設定や変更は、通信システムの管理者と相談の上、決定してください。

2. 製品の概要

本製品は、SIPサーバやGWと連携して、IP電話サービスや内線交換サービスを実現します。

2.1 製品概要

●システム構成例



●本製品の主な特長

- 36個のプログラマブルキーに任意の機能(サービス起動ボタン)を割付けられます。
- PoE(Power-over-Ethernet)による給電に対応しています。
- VLAN/QoSに対応したIPパケット転送が可能です。
- 漢字表示が可能な全角10桁×6行のLCDや複数のLEDを有し、通信状態や設定内容を容易に確認することができます。
- マルチライン対応により複数の代表着信を受付けることができます。(最大24呼)
- 内線/外線や代表など、着信区分毎に異なる着信音で報知することができます。(着信音を鳴動しないことも可)
- パーク保留機能や通話転送機能により、他の電話機に通話を切替ることができます。
- 電話帳(500件)、発着信履歴(各20件)、ワンタッチダイヤルなどのメモリ機能を有し容易な発信操作を可能とします。
- 盗聴防止通話機能により、通話内容の解読を困難とします。
- ホットライン/切断理由表示/ハンズフリー通話/ラインキー発着信通話など、便利な機能を有しています。
(各機能の操作については、別冊の「取扱説明書(操作編)」を参照ください。)

2. 製品の概要

●本製品の構成品・関連物品

区分	物品名 (型名)	数量	記事
基本パッケージ	電話機本体 (IP-36N-ST101C)	1台	ハンドセット/スタンドを含む
	示名条	1枚	紙製シート
	取扱説明書(簡易版)	1冊	操作早見表/保証書を含む
	キーラベル	1セット	[切替]と[盗聴防止] 各2枚
別売品	AC電源アダプタ (IP-TEL AC アダプタ B(S)N-2) 入力: AC100±10V(50/60Hz) 出力: DC48V/200mA	1個	必要に応じて別途調達します 別売品になります
	壁掛用品 (ET-WMP-Si)	1式	
	示名条シート (IP-36N-ST101C(W)用示名条シート) (IP-36N-ST101C(B)用示名条シート)	1式/10枚	
	電話機カバー (ET-TELCVR-Si)	1式/5枚	
ドキュメント	取扱説明書(操作編)	1式	サービス・保守窓口より入手します
	工事説明書(Web 設定編)	1式	
	工事説明書(設定編)	1式	(本書)

2.2 仕様諸元

●電話機構成

区分		
インタフェース	LANポート	IEEE802.3(10/100BASE)、RJ-45モジュラジャック×1
	PCポート	IEEE802.3(10/100BASE)、RJ-45モジュラジャック×1
	表示器構成	全角10桁(半角20桁)×6行(漢字表示対応、バックライト付)
	ランプ構成	プログラマブルキー×36(赤/緑)、着信ランプ×1(赤)、機能キー×4(赤)
	ボタン構成	プログラマブルキー×36、固定機能キー×13、ダイヤルボタン×12
	音声入出力	ハンドセット(ヘッドセット兼用)、マイク、スピーカ(ハンズフリー対応)
制御方式	主な通信手順	SIP, SDP, RTP/RTCP, FTP, ICMP, DHCP
	DTMF転送	みなし音声, RFC2833(設定による), INFOコード(設定による)
	音声符号形式	G.711(64kビット/秒・μ則), G.729a(8kビット/秒)
電源条件	PoE	IEEE802.3af準拠(入力: DC36~57V、抵抗検知、クラス表示=0)
	消費電力	最大約4.5W
構造条件	外形・質量	約179(W)×254(D)×77(H) mm、約860g(本体)
環境条件	温湿度範囲	温度: 0~40°C、湿度: 20~85%(普通室内設置)
適合規格	VCCI	クラスB情報技術装置
	JATE	電気通信端末機器技術基準適合認定

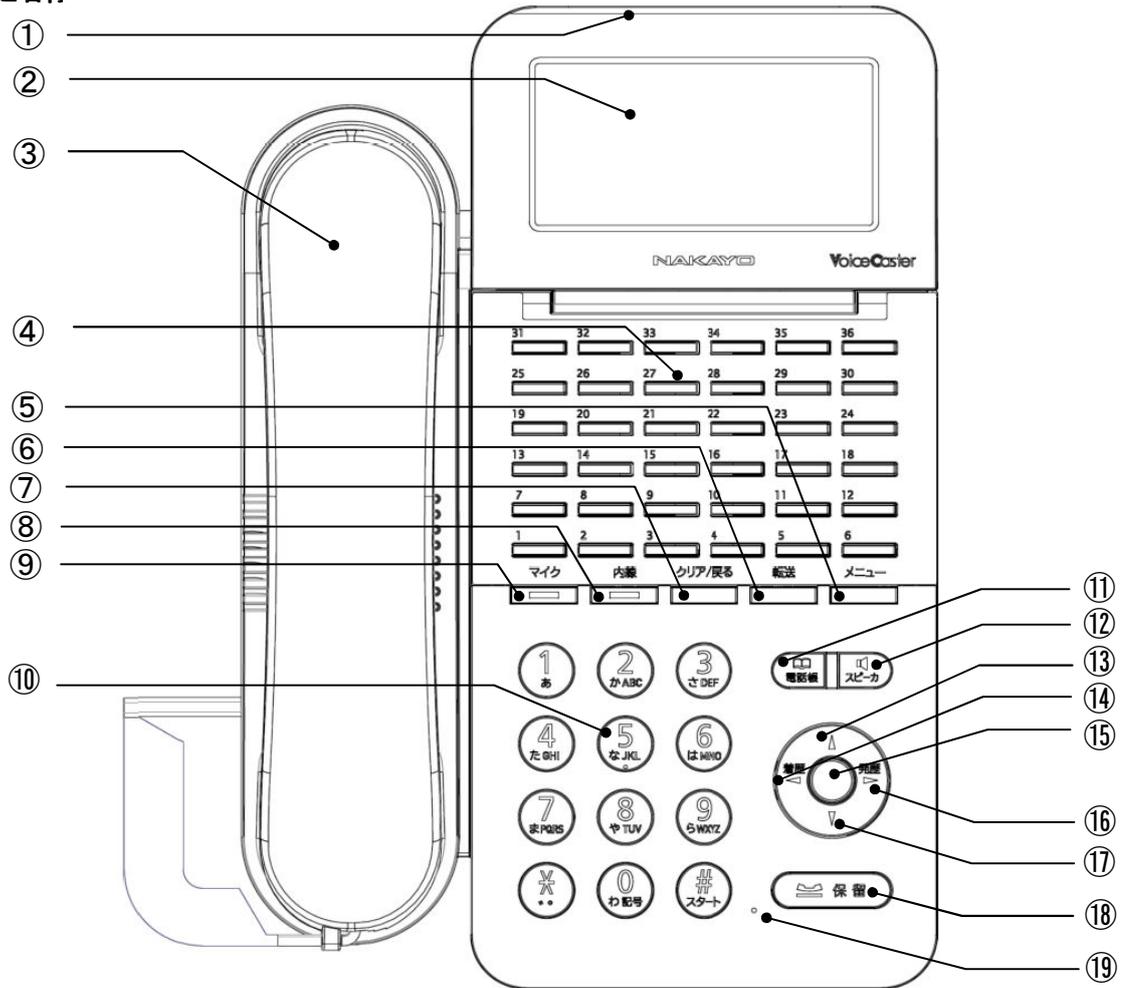
2. 製品の概要

●主な機能

区分	機能名称	区分	機能名称	
発信	外線/内線発信	通話	DTMF(プッシュ)信号送出	
	オフフック回線自動捕捉(外線/内線)		ハンズフリー通話	
	オンフックダイヤル		盗聴防止通話モード	
	プリセットダイヤル		ヘッドセット(自動応答機能)	
	リダイヤル		発信履歴情報表示	
	発信履歴ダイヤル		自動応答機能	
	着信履歴ダイヤル		三者通話	
	短縮ダイヤル/電話帳ダイヤル		表示	発信者情報表示
	ワンタッチダイヤル(追加ダイヤル可)			切断理由表示
	ワンタッチ発信(即時発信)			カレンダー/時刻表示
	発信者番号通知/非通知選択 (固定設定可)	通話時間表示		
	GW直接発信(プレフィックス指定)	データ設定	サービストーン送出	
	ホットライン接続		音量調整(送受器・スピーカ・着信音)	
	IPアドレス発信		電話機設定	
ラインキー発信	FTP設定(パソコンからの設定)			
着信	外線ダイヤルイン着信/内線個別着信	その他	Web 設定(電話帳)	
	外線/内線代表着信		ファームウェアアップデート機能	
	オフフック着信応答		DHCPクライアント	
	プリセレクション		接続確認(PING応答/コマンド送出)	
	不在(着信拒否)		VLAN対応(タグ付与)	
	着信音識別(鳴分け)		QoSビット付与	
	ラインキー着信		PC接続ポート	
	クリック to アンサー		SNTP機能	
	バーチャルライン着信		ワンタッチサービス特番	
	メモリ操作		電話帳登録	ASPサーバ接続
発信履歴/着信履歴記録		オートコンフィグ機能		
プログラマブルキー		RAS機能		
保留/転送	個別保留	BLF		
	パーク保留	NAT 越え		
	応答後転送			
	応答前転送			

3. 各部の名称とはたらき

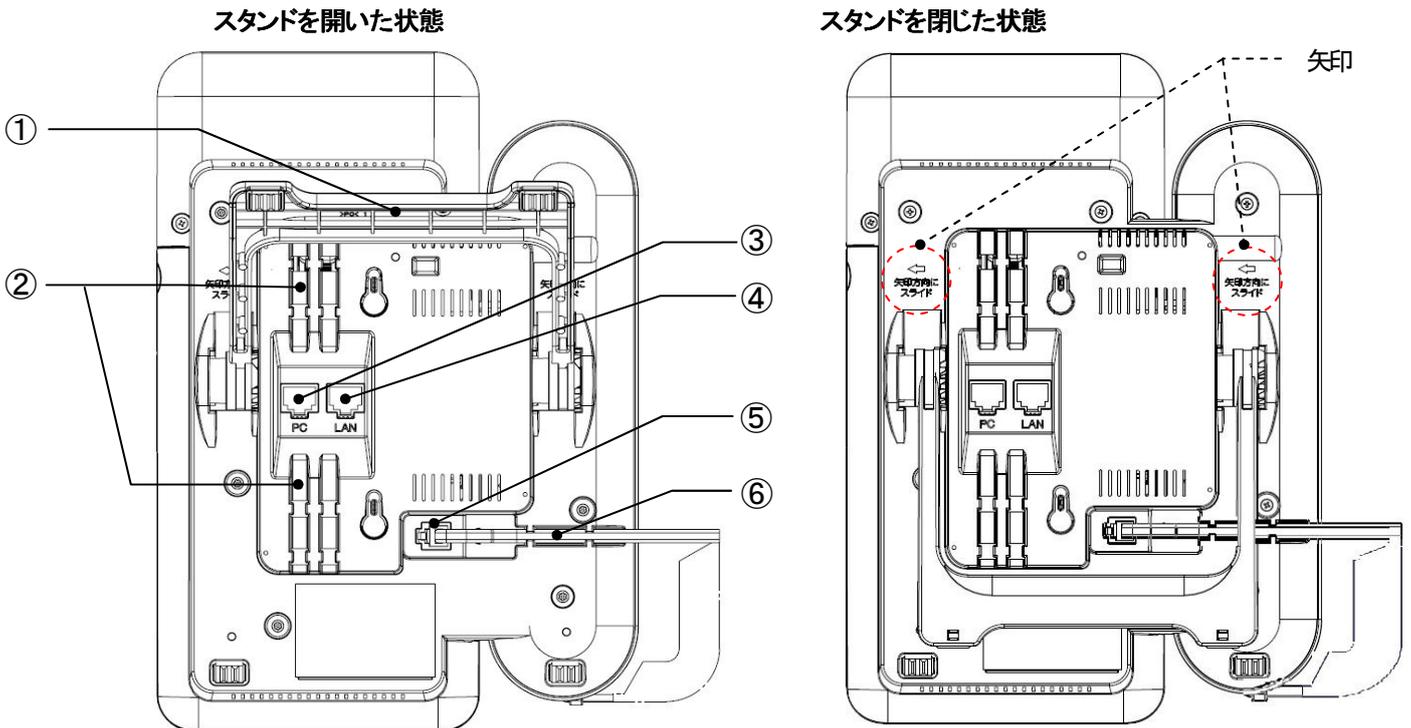
●外観と名称



- | | | |
|---|------------------------------|--|
| ① | 着信ランプ | : 着信状態や不在状態を表示します。 |
| ② | 表示器(LCD) | : 電話機の状態やダイヤル番号などを表示します。(全角10桁、半角20桁×6行)
・ 操作時にバックライトが点灯し、操作終了後約20秒経過すると消灯します。(初期値)
・ 表示器の角度を調節できます。 |
| ③ | 送受器(ハンドセット) | : 相手とお話するときや、発信/終話の操作に使用します。 |
| ④ | プログラマブルキー | : 不在/代表着信/ワンタッチダイヤル/パーク保留/盗聴防止/ラインキーなど、サービスの起動や状態表示に使用します。(任意の位置に割付けすることができます。またLED(緑/赤)により状態を表示します。) |
| ⑤ | [メニュー]ボタン | : データ設定に使用します。また、文字入力時のモード切替(漢、仮、英、数、カナ、エイ、スウ)に使用します。 |
| ⑥ | [転送]ボタン | : 通話の転送に使用します。 |
| ⑦ | [クリア/戻る]ボタン | : 前の操作に戻るときや入力内容を消去するときに使用します。 |
| ⑧ | [内線]ボタン | : 内線発信の指定や内線着信の表示に使用します。 |
| ⑨ | [マイク]ボタン | : ハンズフリー通話に使用します。 |
| ⑩ | ダイヤルボタン
([0]~[9]、[*]、[#]) | : 電話をかけるときや、データ設定(電話帳の文字入力を含む)に使用します。 |
| ⑪ | [電話帳/短縮]ボタン | : 電話帳による発信、電話帳の登録(500件)や検索などに使用します。また、短縮ダイヤル(電話帳)による発信や電話帳検索をするときに使用します。 |
| ⑫ | [スピーカ]ボタン | : スピーカで通話を聞くとときや、発信/終話の操作に使用します。また送受器で通話しているときにこのボタンを押すと送話ミュートになります。 |
| ⑬ | [△(音量)]ボタン | : 各音量を上げるときや、カーソルボタンとして使用します。 |
| ⑭ | [◀(着信履歴)]ボタン | : 着信履歴(20件)を表示するときに使用します。また、カーソルボタンとしても使用します。 |
| ⑮ | [設定/決定]ボタン | : 電話機の各種データ設定や、選択した機能を決定するときに使用します。 |
| ⑯ | [▶(発信履歴)]ボタン | : 発信履歴(20件)を表示するときに使用します。また、カーソルボタンとしても使用します。 |
| ⑰ | [▽(音量)]ボタン | : 各音量を下げるときや、カーソルボタンとして使用します。 |
| ⑱ | [保留]ボタン | : 外線および内線の通話を保留するときに使用します。 |
| ⑲ | マイク | : ハンズフリー通話時のマイクとして使用します。 |

3. 各部の名称とはたらき

●外観と名称



- | | |
|-----------------------|---|
| ① スタンド | : 設置時に電話機の傾きを調整します。
スタンドを開く時は矢印の方向にスライドしてください。 |
| ② LANケーブル用溝 | : PCポート及びLANポートに接続しているLANケーブルをこの溝に通します。 |
| ③ PCポートコネクタ | : 必要に応じてパソコン(PC)等のクライアント機器を接続します。(10/100BASE) |
| ④ LANポートコネクタ | : ネットワークと接続します。(10/100BASE) |
| ⑤ ハンドセット及びヘッドセット用ジャック | : ハンドセットコード及びヘッドセットのプラグを差し込みます。 |
| ⑥ ハンドセット及びヘッドセットコード用溝 | : ハンドセットコード及びヘッドセットコードをこの溝に通します。 |

● プログラマブルキーへの割付け機能 (注1)

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| ・ [ワンタッチダイヤル] | : 電話帳と連携してワンタッチダイヤル発信を行います。 |
| ・ [外線ダイヤルイン着信] | : 外線からのダイヤルイン着信を表示します。 |
| ・ [代表着信] | : 外線/内線の代表グループへの着信を表示します。 |
| ・ [パーク保留] | : パーク保留の起動、状態表示、保留解除を行います。 |
| ・ [盗聴防止] | : 盗聴防止通話の開始/中止を行います。 |
| ・ [外線発信] | : 外線発信を行います。 |
| ・ [ヘッドセット使用] | : ハンドセット(通常モード)とヘッドセットモードを切り替えます。 |
| ・ [個別着信自動応答] | : 個別着信時の自動応答を行います。 |
| ・ [不在] | : 不在機能を利用するときに使います。 |
| ・ [ワンタッチサービス特番] | : サーバに登録されたサービスの開始/アクセス/停止を行います。 |
| ・ [ラインキー] | : ラインキー発信、ラインキー着信を行います。 |
| ・ [BLF] | : 登録した内線番号への発信および状態表示を行います。 |
| ・ [バーチャルライン] | : 複数の着信を一つにまとめて表示します。 |

注1: [ワンタッチダイヤル]、[代表着信]、異なるグループの[パーク保留]、[ラインキー]、[バーチャルライン]、異なるBLF番号の[BLF]は複数の割付けが可能です。

3. 各部の名称とはたらき

●ランプ表示の例

表示パターン	周期	[単位:秒]
消灯		
点灯	(連続) 	
点滅 (I-USE)		
点滅 (I-HOLD)		
点滅 (60INT)		
点滅 (120INT)		
点滅 (240INT)		

3. 各部の名称とはたらき

●ランプ表示と電話機状態 (1/2)

ランプ名称 (注1)	電話機状態	表示色	表示パターン
着信	着信中、FTP 書込中、保留警報中	赤	点滅(240INT)
	ネットワーク接続起動中、保留中、転送通話中、FTPログイン中、FTPアップロード中	赤	点滅(60INT)
	不在設定状態	赤	点灯
代表着信	代表着信中	赤	点滅(240INT)
	自電話機で通話中	緑	点滅(I-USE)
外線ダイヤルイン着信	外線ダイヤルイン着信中	赤	点滅(240INT)
	自電話機で通話中	緑	点滅(I-USE)
内線	内線着信中	赤	点滅(240INT)
	発信または通話中	赤	点滅(I-USE)
外線発信	発信または通話中	緑	点滅(I-USE)
保留	保留中	赤	点滅(60INT)
	保留警報中	赤	点滅(240INT)
パーク保留	他電話機による保留中	赤	点滅(60INT)
	自電話機による保留中	緑	点滅(I-HOLD)
	自電話機での保留警報	緑	点滅(240INT)
マイク	ハンズフリーモード	赤	点灯
スピーカ	スピーカ受話状態 ヘッドセットモード通話中 ハンドセット送話ミュート中	赤	点灯
盗聴防止	盗聴防止モード(起動側)	緑	点灯
	盗聴防止モード(被起動側)	緑	点滅(60INT)
ヘッドセット使用	ヘッドセットモード起動中	赤(注2)	点灯
個別着信自動応答	個別着信自動応答起動中	緑	点灯
ラインキー	他電話機による通話中、回線捕捉中	赤	点灯
	他電話機による保留中	赤	点滅(60INT)
	ラインキー着信中	赤	点滅(240INT)
	ワンタッチサービス起動中	緑	点灯
	自電話機で通話中、回線捕捉中、着信応答	緑	点滅(I-USE)
	自電話機による保留中	緑	点滅(I-HOLD)
バーチャルライン	自電話機での保留警報	緑	点滅(240INT)
	バーチャルライン着信中	赤	点滅(240INT)
	自電話機で通話中	緑	点滅(I-USE)

3. 各部の名称とはたらき

●ランプ表示と電話機状態 (2/2)

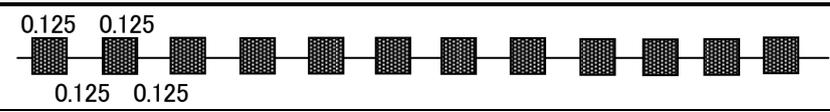
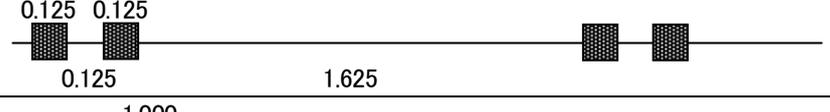
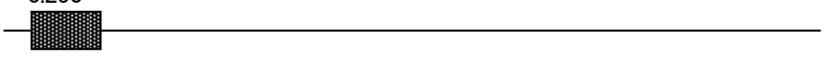
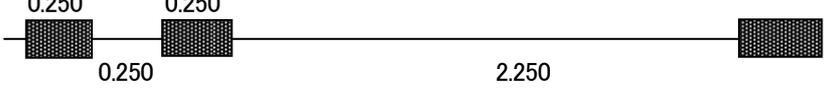
ランプ名称 (注1)	電話機状態	表示色	表示パターン
ワンタッチサービス特番	サービス起動中	赤	点灯
	サービスアクセス中	緑	点滅(I-USE)
情報表示	ASPサーバ接続待ち	赤	点灯
	ASPサーバ接続待ち-文字情報有り	赤	点滅(120INT)
	ASPサーバ接続中	緑	点灯
不在	レジスト解除設定中、不在状態	赤	点灯
	レジスト応答待ち、レジスト解除応答待ち	赤	点滅(60INT)
BLF	NOTIFY(g_on)受信	緑	点灯
	NOTIFY(g_iuse)受信	緑	点滅(I-USE)
	NOTIFY(g_60int)受信	緑	点滅(60INT)
	NOTIFY(g_240int)受信	緑	点滅(240INT)
	NOTIFY(g_ihold)受信	緑	点滅(I-HOLD)
	NOTIFY(confirmed)受信	赤	点灯
	NOTIFY(r_iuse)受信	赤	点滅(I-USE)
	NOTIFY(r_60int)受信	赤	点滅(60INT)
NOTIFY(early)受信	赤	点滅(240INT)	

注1: 着信、内線、保留、マイク、スピーカ、情報表示以外のランプは、プログラマブルキーとしての機能割付けが必要です。

注2: データ設定の「自動応答機能」が「自動応答する」の場合は、緑点灯になります。(初期値: 自動応答しない)

3. 各部の名称とはたらき

●トーン表示の例 (1/2)

トーン種別	周期 [単位: 秒]
内線発信音 (SDT) [400Hz]	
外線発信音 (DT) [400Hz]	(連続) 
ウェイトイング トーン(WT) [400Hz]	
呼出音 (RBT) [400Hz/16Hz 変調]	
話中音 (BT) [400Hz]	
ハウラー音 (HOW) [2800Hz]	(連続) 
キー押下確認音 [1000Hz]	
自動応答音 [500Hz]	
ボリューム 確認音 [666Hz/16Hz 変調]	
外線着信音 (IR) (ダイヤルイン着信音) (代表着信音) (バーチャルライン着信音) A:[666Hz/16Hz 変調] B:[500Hz/32Hz 変調] C:[800Hz/16Hz 変調] D:[587Hz/16Hz 変調] E:[743Hz/16Hz 変調] F:[743Hz/32Hz 変調] G:[825Hz/40Hz 変調] H:[880Hz/32Hz 変調] I:[493Hz、622Hz/32Hz 変調] J:[554Hz、830Hz/16Hz 変調]	
内線着信音 (SIR) A:[1000Hz/32Hz 変調] B:[800Hz/128Hz 変調] C:[1000Hz/256Hz 変調] D:[666Hz/128Hz 変調] E:[500Hz/128Hz 変調] F:[587Hz/16Hz 変調] G:[743Hz/16Hz 変調] H:[880Hz/32Hz 変調] I:[1244Hz、1567Hz/16Hz 変調] J:[1479Hz、1864Hz/32Hz 変調]	

3. 各部の名称とはたらき

●トーン表示の例 (2/2)

トーン種別	周期	[単位:秒]
保留音 (注1) (メロディ)	(連続) 	
保留警報音 (注1) [666Hz/16Hz 変調]	 0.125 0.125 0.125 0.125 0.125 0.125 0.125 1.125	
ASPアラームA [1000Hz]	 0.125 0.125 0.125 1.625	
ASPアラームB [2000Hz]	 0.125 0.125 0.125 1.625	

注1: 保留音及び保留警報音は、本製品から送出した場合は示します。

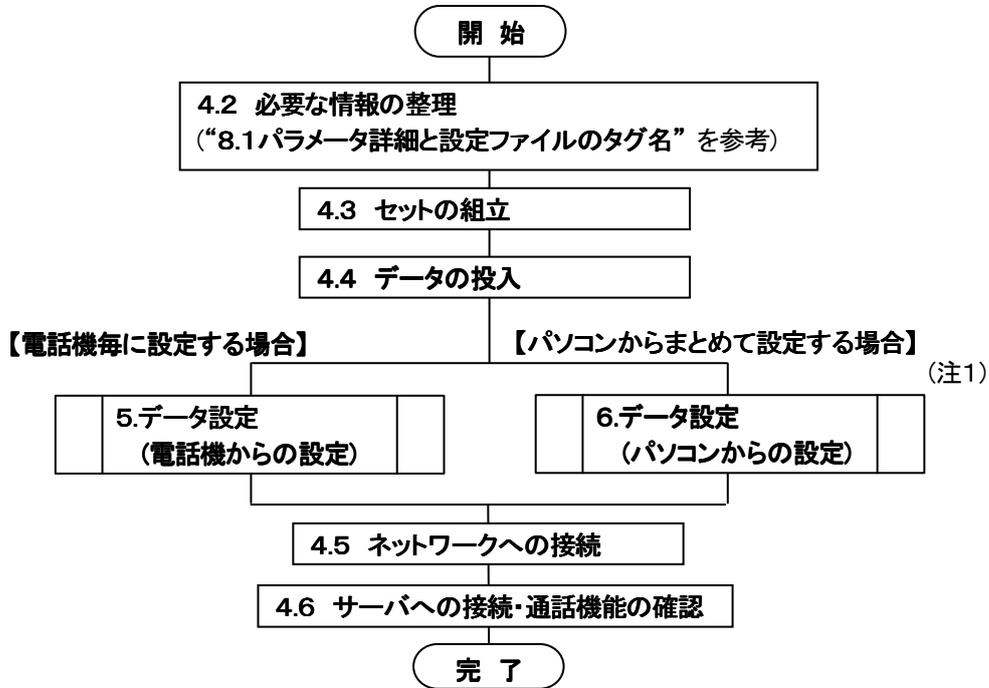
4. 準備

ここでは、本製品の設営に必要となる電話機の組立やデータ設定について説明します。

4.1 設営手順

次の手順に従って、本製品を利用可能な状態にします。

また、あらかじめSIPサーバやGW等の設備についても必要なデータ設定を行っておきます。



注1: PCからの設定操作は、FTPにより、編集したパラメータファイルを書込みます。パラメータファイルの編集や書込み操作については、“6.1 データ設定の方法 (設定ファイルの編集と書込み)”を参照してください。

4. 準備

4.2 必要な情報の整理

次の表を参考に、保守者モードの設定項目、ユーザモードの設定項目を整理します。(パラメータの詳細は“8.1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名”を参照の事)

●保守者モード設定項目 (1/4)

項目番号	区分	項目名	タグ名 (注1)	決定値	初期値
01	ネット ワーク 情報	DHCPクライアント	<dhcp>		1:有効
		IPアドレス	<ipadr>		192.168.001.050
		サブネットマスク	<subnetmask>		255.255.255.000
		デフォルトGWアドレス	<gwadr>		000.000.000.000
		DNSサーバアドレス(1)	<dns_1>		000.000.000.000
		DNSサーバアドレス(2)	<dns_2>		000.000.000.000
		SNTPサーバアドレス	<sntp_adr>		(なし)
		タイムゾーン	<tim_zone>		0-09:00
		ブロードキャストTTL値	<broadcast_ttl>		16
		Etherポート設定	<ether>		0:自動認識
		PCポート設定	<pc_ether>		0:自動認識
		タグVLAN機能	<use_vlan>		0:使用しない
		VLAN ID値(ID0)	<vlan_id0>		0001
			VLAN ID値(ID1)	<vlan_id1>	
		VLAN優先度(HUB ポート)	<vlan_priority0>		7
			VLAN優先度(PC→HUB ポート)	<vlan_priority1>	
		音声/パケットQoS	<packet_qos>		40
		シグナリングQoS	<signaling_qos>		40
		オートコンフィグ設定	<autoconfig>		0:無効
		コンフィグサーバアドレス	<config_addr>		000.000.000.000
		オートコンフィグ識別情報	<config_info>		0:MACアドレス
		オートコンフィグURL選択	<config_url>		1:パターン1
		ファームウェアアップデート	<firmware_updata>		0:無効
		STUN クライアント	<stun_client>		0:無効
STUN サーバアドレス	<stun_adr>		(なし)		
STUN サーバポート番号	<stun_port>		03478		
STUN キープアライブタイマ	<stun_keep_time>		010 [秒]		
02	サーバ 登録情報	サーバレジスト	<registrarserver>		0:無効
		アドレス形式	<addressmode>		1:@サーバアドレス
		外線番号	<incoming>		(なし)
		内線ID	<extension_id>		(なし)
		内線番号	<extension>		(なし)
		ユーザID	<sip_id1>		(なし)
		パスワード	<sip_pwd1>		(なし)
		SIPサーバアドレス(1)	<ca_ipadr>		(なし)
		SIPサーバアドレス(2)	<ip_ca2>		(なし)
		SIPドメイン名	<domain>		(なし)
		ディスプレイネーム	<disp>		(なし)
起動時レジスト解除	<startup_unreg>		0:解除する		
03	SIP 制御情報	Expire値	<registrartime>		03600 [秒]
		呼出継続タイマ	<invite_timeout>		0180 [秒]
		SIP T1タイマ	<sipfirst>		0:500 [ミリ秒]

注1:PCからの設定時に使用するパラメータファイルのタグ(情報名)です。

4. 準備

●保守者モード設定項目 (2/4)

項目番号	区分	項目名	タグ名 (注1)	決定値	初期値	
03	—	SIP 制御情報	SIP T2タイマ	<sip_interval>		04 [秒]
			セッションタイマ使用	<use_session>		0: 使用しない
			セッションタイマ値	<session_timer>		0300[秒]
			SIP Proxyポート番号	<sip_proxy_port>		05060
			SIP Localポート番号	<sip_local_port>		05060
			RTP最小ポート番号	<rtp_rtcp_port_min>		04000
			RTP最大ポート番号	<rtp_rtcp_port_max>		07000
			リクエスト送信回数	<trans_times>		4 [回]
			ライン制御送信回数	<trans_line_times>		4 [回]
			SUBSCRIBE 更新動作	<sip_re_subscribe>		0: 新規リクエスト
			リモートパーティID表示	<remote_party_id>		0: 表示しない
			04	—	発信機能 設定	市外局番
外線捕捉プレフィックス(注2) (外線捕捉特番入力)	<prefix>					0
外線捕捉プレフィックス(注2) (外線捕捉自動付加)	<add_prefix>					0: 無効
GW指定プレフィックス (GW 指定特番)	<gwprefix >					(なし)
GW IPアドレス	<gwaddress>					000.000.000.000
GW 使用ポート番号	<gwport>					05060
ホットライン接続	<hotline>					0: 無効
ラインキー設定(ラインポジション)	<line_pos1~24>					00
ラインキー設定(発信捕捉)	<line_hunt1~24>					0: 発信捕捉しない
ラインキー設定 (代表着信グループ番号)	<line_repr1~24>					00
サービス区分詳細情報 1	<ext_service1>					00,00000,00000,00000,0
:	:					
サービス区分詳細情報 8	<ext_service8>					00,00000,00000,00000,0
内線番号認識パターン (内線認識番号)	<naisen_pt_num1~20>					内線認識番号:(なし)
内線番号認識パターン (内線認識桁数)	<naisen_pt_keta1~20>					内線認識桁数:01
BLF設定 1(内線番号)	<blf_no1>					(なし)
:						
BLF設定 24(内線番号)	<blf_no24>					(なし)

注1: PCからの設定時に使用するパラメータファイルのタグ(情報名)です。

注2: 外線捕捉プレフィックスを別名で外線発信特番と記載しております。

4. 準備

●保守者モード設定項目 (3/4)

項目番号	区分	項目名	タグ名 (注1)	決定値	初期値		
05	01	—	着信機能 設定	接続可能チャンネル数	<enable_channel>	02 [チャンネル]	
				代表着信設定 (代表番号)	<representative1~24>	(なし)	
	01	—	着信機能 設定	代表着信設定 (オフフック応答)	<represeofhk1~24>	0: オフフック応答しない	
				ディスプレイネーム表示	<display_disp>	1: 表示する	
	04	—	着信機能 設定	不応答履歴記録	<called_his_save>	0: 記録しない	
	05	—	着信機能 設定	不在動作	<abs_form>	0: 個別着信拒否	
	06	—	着信機能 設定	クリック to アンサー	<click_to_answer>	0: 無効	
	07	—	着信機能 設定	自動応答要求着信	<arrive_instruction>	0: 無効	
	08	01	—	着信機能 設定	バーチャルライン設定 (グループ番号)	<virtual_grp1~24>	01
					バーチャルライン設定 (電話番号)	<virtualtelnum1~24>	(なし)
	09	01	—	着信機能 設定	バーチャルオフフック応答	<virtualofhk1~24>	0: オフフック応答しない
	06	01	—	保留機能 設定	自己保留形式	<hold_type>	2: SDP 保留 1
パーク保留設定					<park_grp1~24>	(なし)	
03		—	保留機能 設定	パーク保留解除特番	<hold_pick_up>	#60	
04		—	保留機能 設定	転送時保留動作	<hold_transfer>	0: 無効	
05		—	保留機能 設定	保留警報	<hold_time>	0: 警報なし	
06		—	保留機能 設定	パーク保留警報	<park_time>	0: 警報なし	
07		—	保留機能 設定	転送時保留動作 2	<hold_transfer2>	1: 保留を受け付ける	
07	01	—	プログラマ ブルキー 設定	プログラマブルキー1~36	<onekey1~36>	99(999): 未使用 (注2)	
08	01	—	音声通信 機能設定	音声圧縮種別	<dakind_on>	0: G.711 優先	
				RTP送信周期	<multi711> <multi729A>	G. 711: 02 G. 729: 02	
	03	—	音声通信 機能設定	揺らぎ吸収時間	<jitter711> <jitter729A>	G. 711: 000 G. 729: 000	
	04	—	音声通信 機能設定	PB 信号送出時間	<pbtime>	0: 100ms	
	05	—	音声通信 機能設定	PB 信号休止時間	<pbminimum>	0: 100ms	
	06	1	—	音声通信 機能設定	PB 信号送出形式 (G711)	<dtmf_sending_set711>	0: トーン
					PB 信号送出形式 (G729)	<dtmf_sending_set729>	1: RFC2833

注1: PCからの設定時に使用するパラメータファイルのタグ(情報名)です。

注2: PCから設定する場合は、パラメータ値が“999”になります。

4. 準備

●保守者モード設定項目 (4/4)

項目番号	区分	項目名	タグ名 (注1)	決定値	初期値		
09	01	情報表示 サーバ 設定	情報表示サーバ接続	<asp_server>		0:無効	
	02		サーバIPアドレス	<asp_ipadr>		000.000.000.000	
	03		使用ポート番号	<asp_port>		51000	
	04		接続ユーザ名	<asp_id>		(なし)	
	05		接続パスワード	<asp_pwd>		(なし)	
	06		0	制御ボタン使用 (プログラマブルキー32~35)	<asp_ctrlkey1>		1:有効
			1	制御ボタン使用(十字・決定キー)	<asp_ctrlkey2>		1:有効
			2	制御ボタン使用(ダイヤルキー)	<asp_ctrlkey3>		1:有効
99	05	保守	FTP ログインパスワード	<ftp_pwd>		system_mgr	
	06		FTP モード	<ftpmode>		1:モード B	
	07		サーバスライド条件選択	<serverslide>		0:スライド条件 A	
	08		三者通話終話設定	<threetalk>		0:主催者切断通話継続	

注1:PCからの設定時に使用するパラメータファイルのタグ(情報名)です。

4. 準備

●ユーザモード設定項目 (1/2)

項目番号	区分	項目名	タグ名 (注1)	決定値	初期値	
01	表示設定	時刻表示形式	<dtdisp>		0:12 時間制	
		自己電話番号表示	<dendisp>		1:表示する	
		待機画面選択	<extension_disp>		0:内線番号表示	
		コントラスト調整	<contrast>		4	
		バックライト設定	<backlight>		2:使用時点灯	
		ワンタッチサービス優先	<priority_disp>		0(優先なし)	
02	通知音設定	キー確認音	<keytone>		1:送出する	
		保留音送出設定	<sndht>		1:送出する	
03	発信機能 設定	発信回線種別選択	<cap_select>		0:内線発信	
		ワンタッチ外線捕捉	<coi_cap>		1:捕捉する	
		ワンタッチ即時発信	<onetouch>		0:発信しない	
		ワンタッチダイヤル設定	<onekey1~36>			99(999):未使用 (注2)
		1	発信者番号通知(内線発信)	<numnotice_on>		1:通知する
			2	発信者番号通知(外線発信)	<numnotice_off>	
		1	カメラID 通知機能(ID 値指定)	<camera_id>		00
2	カメラID 通知機能 (IP アドレス指定)		<camera_ip>		000.000.000.000	
04	着信機能 設定	オフフック自動応答	<ofhk_auto>		1:応答する	
		非通知着信可否	<anonymous_call>		1:着信を許容する	
		クリックコール自動応答	<click_call>		0:応答しない	
		1	個別着信自動応答 (着信自動応答時間)	<incoming_resttime>		2:6 秒後に応答
			2	個別着信自動応答 (着信自動切断時間)	<incoming_autodisc>	

注1:PCからの設定時に使用するパラメータファイルのタグ(情報名)です。

注2:PCから設定する場合は、パラメータ値が“999”になります。電話機から設定する場合は、“999”を入力後のLCDの表示は“99”になります。

4. 準備

●ユーザモード設定項目 (2/2)

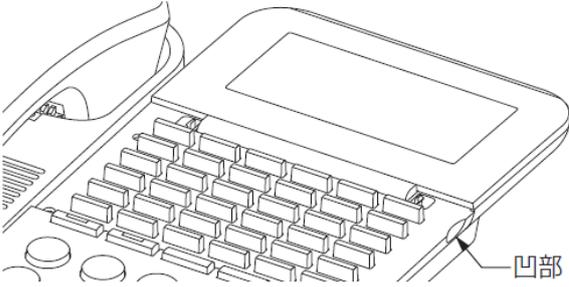
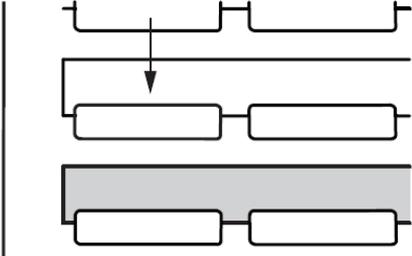
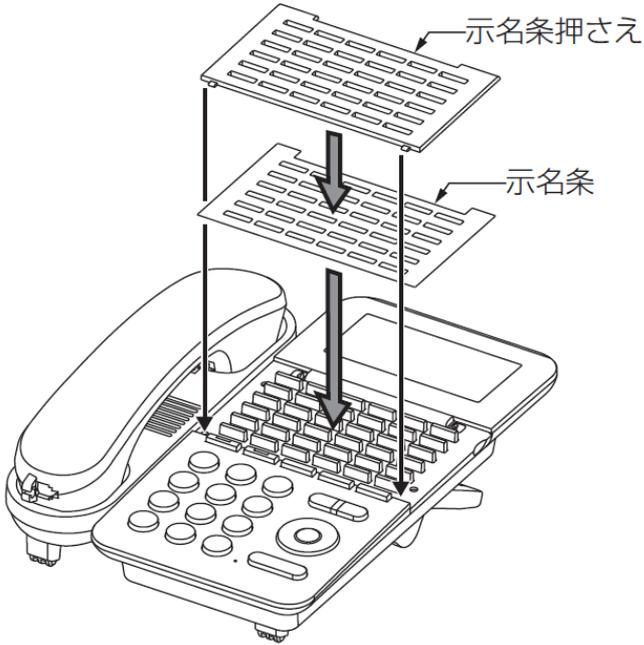
項目番号	区分	項目名	タグ名 (注1)	決定値	初期値	
05	着信音設定	内線着信音	<internal_ring>		01:着信音 A	
		ダイヤルイン着信音	<outside_ring>		01:着信音 A	
		代表着信音(グループ 1)	<represent_ring1>		01:着信音 A	
		:	:			
		代表着信音(グループ 24)	<represent_ring24>		01:着信音 A	
		ドアホン着信音 1	1	<doorphone_ring1>		1:着信音 A
			2	<doorphone_ring2>		2:着信音 B
		バーチャルライン着信音 (グループ 01)	01 : 24	<virtual_ring1>		01:着信音 A
				:	:	
<virtual_ring24>				01:着信音 A		
06	ヘッドセット機能設定	自動応答機能	<autocall>		0:自動応答しない	
		自動応答時間	<restime>		2:6秒後に応答	
		自動切断時間	<autodisc>		2:6秒後に切断	
07	カレンダー設定	日付設定	タグなし		00年01月01日	
		時刻設定	タグなし		00時00分	
08	その他の設定	ダイヤル桁間タイマ	<dialtime>		04(秒)	
		電話帳検索モード	<directory_search>		0:カナ検索	
		サーバコール自動接続	<image_display_st1>		0:手動接続	

注1:PCからの設定時に使用するパラメータファイルのタグ(情報名)です。

4. 準備

4.3 セットの組立

●示名条・示名条押さえの取付け

 <p>凹部</p>	<p>手順1: 示名条は本体に実装されています。表示器の角度をつけていない状態で、示名条押さえを右側にある凹部から上に持ち上げて取り外し、示名条を電話機から外してください。</p>
<p>• 記入位置は下図の白枠内としてください。</p> 	<p>手順2: 電話番号や機能名称等を該当するボタン穴の上に記入します。</p>
 <p>示名条押さえ</p> <p>示名条</p>	<p>手順3: 示名条を左図のように電話機のプログラマブルキー部分に取り付けます。</p> <p>手順4: 示名条押さえを電話機に取り付けます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 示名条押さえの下部にある突出部を電話機の溝に挿入します。

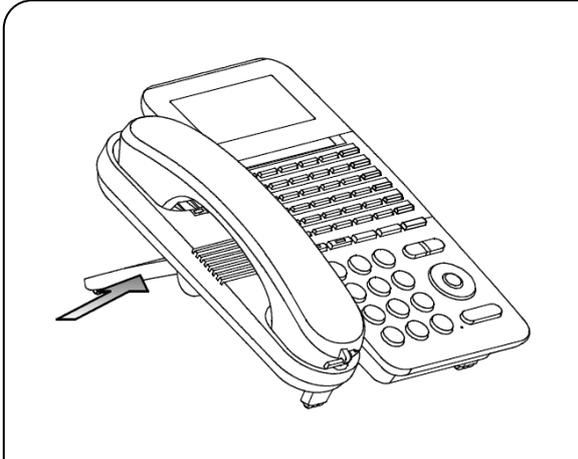
お知らせ

次の事項は、本製品を取り扱ううえでの注意事項です。

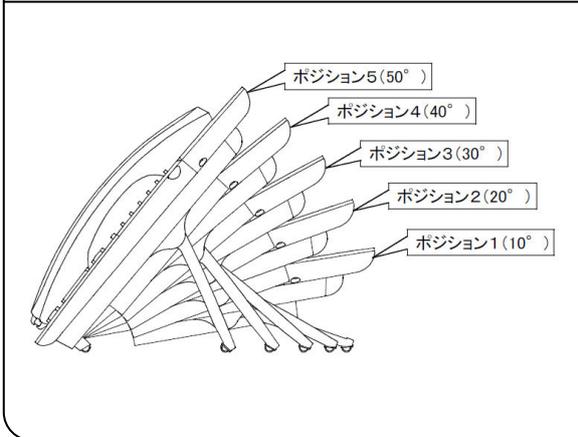
- シート形式の示名条(別売品)も使用できます。シート形式の示名条は、インクジェットプリンタで印刷することができます。(プリンタによっては印刷できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。) また、上側の示名条のみ数字が印刷されています。お好みのものを使用してください。使用時はミシン目から切り離して取り付けてください。

4. 準備

●スタンドの角度調整



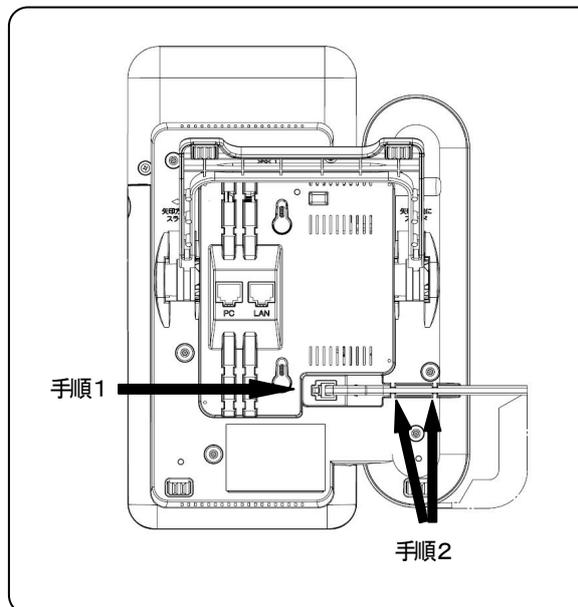
手順1: 電話機のスタンドの両側を矢印の方向にスライドさせます。



手順2: そのままスタンドを動かして好みのポジションに調整し、スタンドのスライドをやめるとスタンドがロックされます。

- ・角度調整後は、スタンドがしっかりと固定されていることを確認してください。
- ・ポジション5の角度で使用するときには、ハンドセット受け部にプランジャを取り付けてください。
- ・ポジション1の角度では使用しないでください。

●カールコードの接続



手順1: ハンドセットのカールコードを電話機底面のハンドセット用ジャックに接続します。

手順2: ハンドセットのカールコードを電話機底面のハンドセットコード用溝に通します。

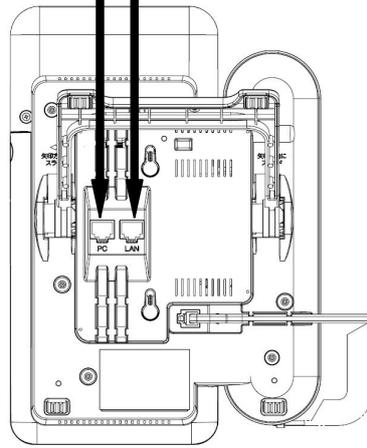
お知らせ

次の事項は、本製品を取り扱ううえでの注意事項です。

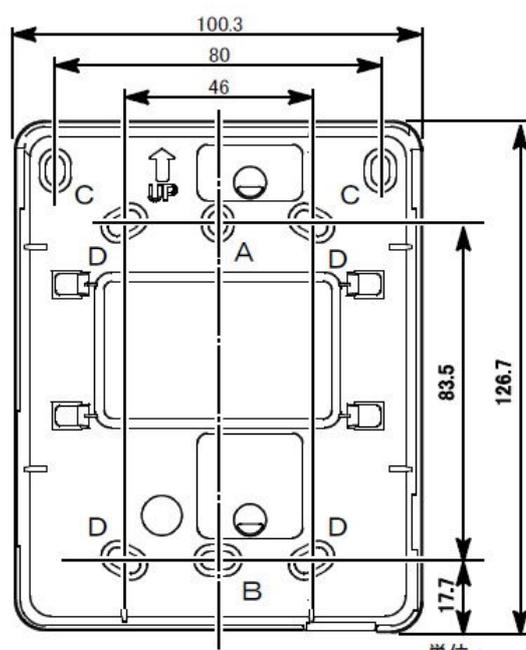
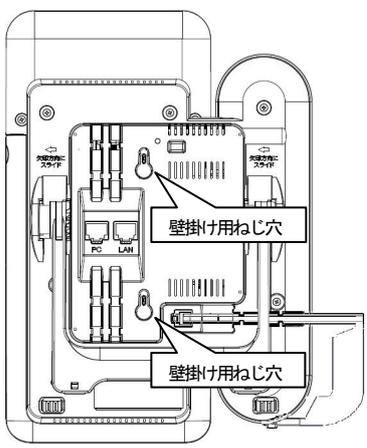
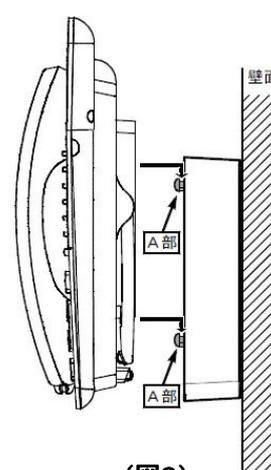
- スタンドは、立てた状態で使用してください。ケーブルが破損する恐れがあります。

4. 準備

●ネットワークケーブルの接続

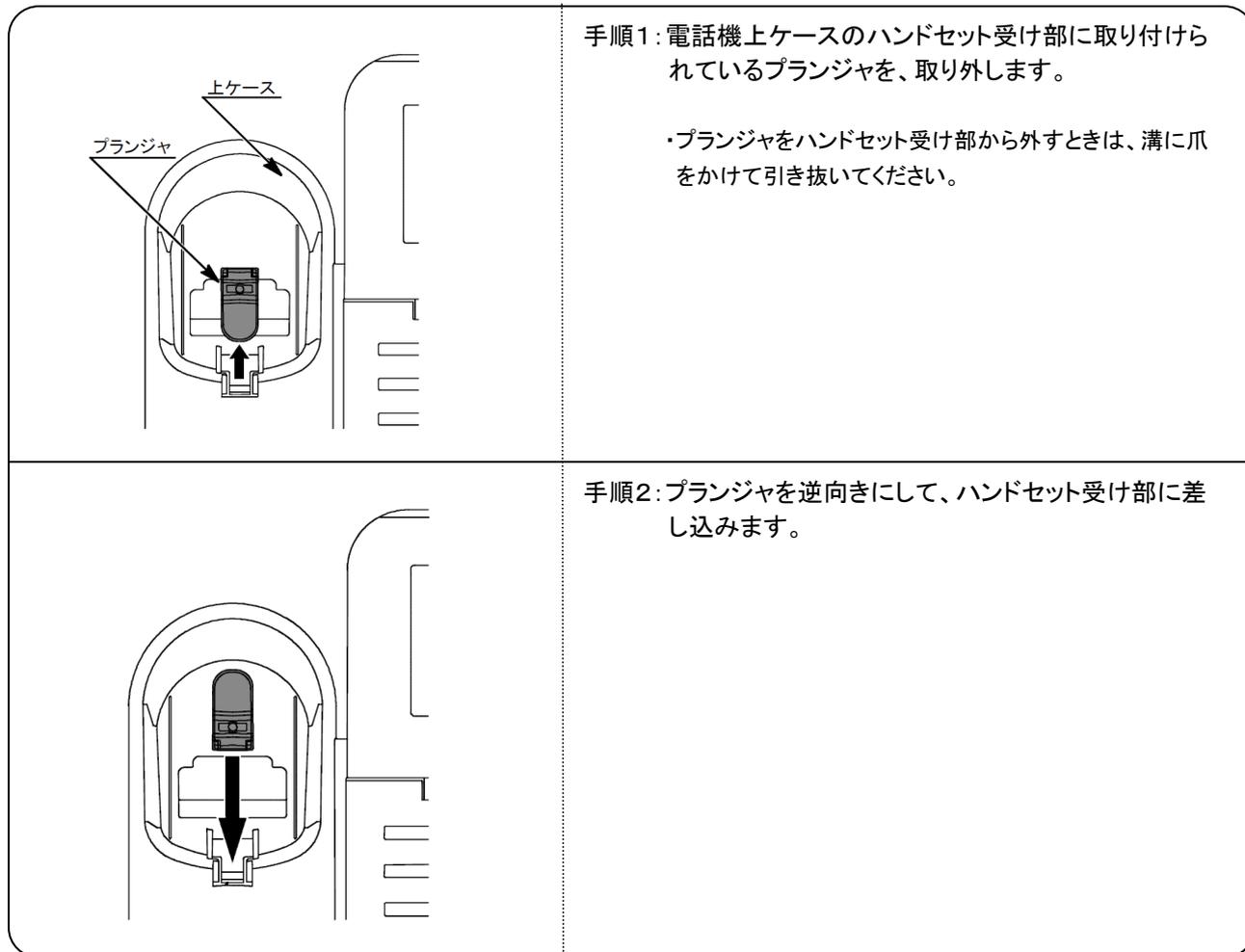
	<p>●HUBとの接続 手順1: ネットワーク接続用ケーブル (LANケーブル)の一方のプラグをLANポートへ差し込みます。</p>	<p>●PCとの接続 手順1: ネットワーク接続用ケーブル (LANケーブル)の一方のプラグをPCポートへ差し込みます。</p>
	<p>手順2: ネットワーク接続用ケーブル (LANケーブル)のもう一方のプラグをHUBに接続します。</p>	<p>手順2: ネットワーク接続用ケーブル (LANケーブル)のもう一方のプラグをPCへ接続します。</p>
	<p>手順3: ネットワーク接続用ケーブル (LANケーブル)をLANケーブル用溝に通します。</p>	<p>手順3: ネットワーク接続用ケーブル (LANケーブル)をLANケーブル用溝に通します。</p>

●壁掛用品(別売品)の取付け

 <p style="text-align: center;">単位: mm</p>	<p>手順1: 壁掛けブラケットを壁に固定します。</p> <p>●壁に取り付ける場合 B穴とC穴に添付品のねじで壁に固定します。</p> <p>●スイッチボックスに取り付ける場合 A穴とB穴にナベねじ(工事者調達)でスイッチボックスのねじ穴に固定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2個用スイッチボックスに取り付ける場合はD穴(4カ所)を使います。市販のスイッチボックス用のねじを使用してください。 ・電動ドライバー等を利用する場合、ねじの締め付けトルクは約 40N・cm 以下とし、強く締めすぎないように注意してください。 <p>・取り付け方向に注意してください。 「UP」表示が上になるように取り付けてください</p>
	<p>手順2: 壁掛けブラケットの2個の突起(図2 A部)を、電話機裏面の「壁掛け用ねじ穴」(図1)にはめ込みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話機のスタンドは閉じた状態にしてください。
 <p style="text-align: center;">(図1)</p>	<p>手順3: 電話機を下側にずらしします。 (抜け防止のロックがかかります)</p>
 <p style="text-align: center;">(図2)</p>	

4. 準備

●プランジャの取付け



手順1: 電話机上ケースのハンドセット受け部に取り付けられているプランジャを、取り外します。

・プランジャをハンドセット受け部から外すときは、溝に爪をかけて引き抜いてください。

手順2: プランジャを逆向きにして、ハンドセット受け部に差し込みます。

お願い

次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- 電話機を壁掛け設置で使用する場合は、ハンドセット受け部にプランジャ(ハンドセット保持用フック)を必ず取り付けてください。また、ハンドセットをとる際は、プランジャに引っ掛からないように上方向にずらしながらとるようにしてください。無理にハンドセットをとると、プランジャが破損することがあります。

4. 準備

4.4 データの投入

4.2項で整理したパラメータを本製品に設定します。

データ設定には、次の方法がありますので、設置する電話機の台数や環境などを考慮して、適切な方法を選択してください。(この時点では、ネットワーク接続に関する情報(パラメータ)の設定が完了していないため、実際に運用するIPネットワークには接続しないでください。データの投入完了後に接続します。)

※オートコンフィグを設定しておくと、サーバに登録された種々のデータ設定値を自動で取得できます。

(取得したデータ設定値に誤った設定値がある場合、FTPモードの設定により電話機に登録される内容が異なります。登録される内容については“6.1 データ設定の方法(設定ファイルの編集と書き込み) ●設定ファイルの書き込みとログアウト”の注2の記載内容と同様です。)

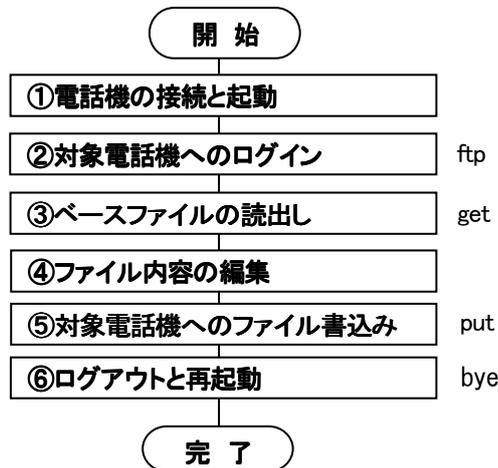
①直接電話機のLCDとダイヤルボタンを用いて入力する方法 →“5.データ設定(電話機からの設定)”に示します。

- ・「保守者モード」：[メニュー]→[#][#][*]ボタンを押すことで設定モードに移行し、設定項目を選択します。
- ・「ユーザモード」：[メニュー]ボタンを押すことで設定モードに移行し、設定項目を選択します。

②パソコン上で編集したパラメータファイルを書込む方法 →“6.データ設定(パソコンからの設定)”に示します。

- ・次の手順でパソコンから操作コマンドを入力します。

(工場出荷直後の状態の電話機にデータを投入する場合、電話機と設定用パソコンを直接接続して行ってください。)



4.5 ネットワークへの接続

データの投入が完了したら、本製品を実際に運用するネットワークに接続し、再起動させます。

(“4.3 セットの組立 ●ネットワークケーブルの接続”を参考に、ネットワーク(HUB)と本製品のHUBポートをLANケーブルで接続します。AC電源アダプタ(別売品)を利用される場合、一旦電源を抜き、再投入してください。)

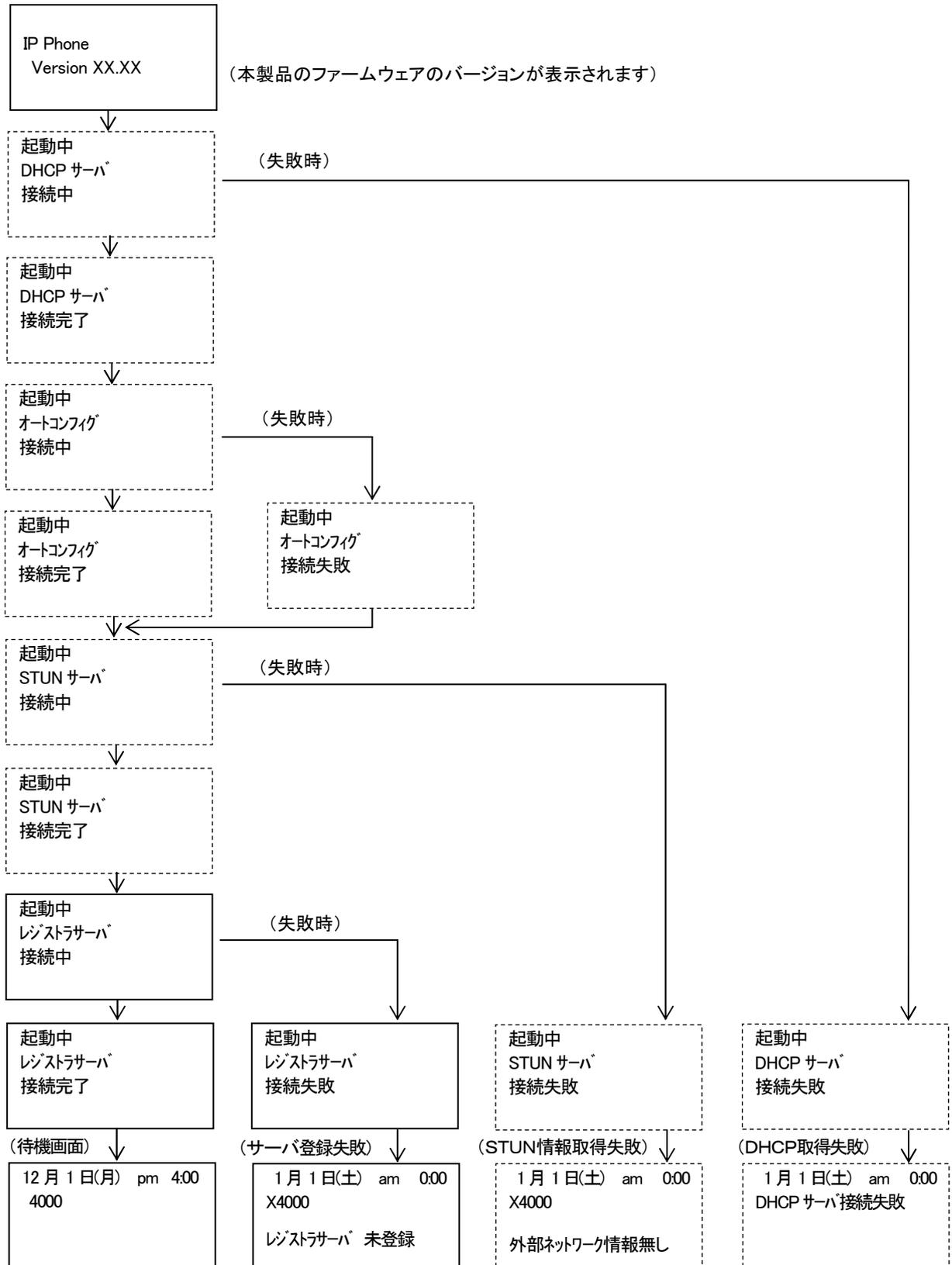
4. 準備

4.6 サーバへの接続・通話機能の確認

本製品が再起動されると、次の画面が表示されます。

「待機画面」が表示されれば、サーバへの接続が完了し、利用可能な状態となったことを示します。

また接続完了後、本製品に対して発信、着信、応答、通話、保留、転送などの通話機能を確認してください。



・画面は一例です。「DHCPクライアント」を“無効”、「オートコンフィグ設定」を“無効”、「STUNクライアント」を“無効”に設定されている場合は、点線部の画面は表示されません。

・接続に失敗した場合は、ネットワーク機器の稼働や接続状態、本製品のデータ設定内容などを再確認してください。

5. データ設定（電話機からの設定）

ここでは、電話機のLCDやダイヤルボタンを用いて、必要な動作パラメータを直接投入する方法について説明します。（設定項目毎に、「保守者モード」と「ユーザモード」に区分されていますので、注意してください。）

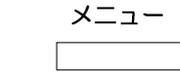
5.1 データ設定の方法（保守者モード・ユーザモード）

●保守者モードでのデータ設定

保守者モードでは、ネットワークやSIPサーバとの接続条件など重要なパラメータを設定します。

次の操作で保守者モードの設定画面を表示し、画面に従って必要な項目を設定します。

（以下の説明では、プログラマブルキーの9番にワンタッチダイヤル機能を設定する場合を例示します。）

	<p>手順1: 待機状態から[メニュー]ボタンを押すと、「ユーザモード」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 560 1123 775"><tr><td>データ設定</td></tr><tr><td>01 表示設定</td></tr><tr><td>02 通知音設定</td></tr><tr><td>03 発信機能設定</td></tr><tr><td>04 着信機能設定</td></tr><tr><td>05 着信音設定</td></tr></table>	データ設定	01 表示設定	02 通知音設定	03 発信機能設定	04 着信機能設定	05 着信音設定						
データ設定													
01 表示設定													
02 通知音設定													
03 発信機能設定													
04 着信機能設定													
05 着信音設定													
	<p>手順2: 次に、ダイヤルボタンで[#][#][*]と押すと、「保守者モード」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 880 1123 1095"><tr><td>データ設定</td></tr><tr><td>01 ネットワーク情報</td></tr><tr><td>02 サーバ登録情報</td></tr><tr><td>03 SIP制御情報</td></tr><tr><td>04 発信機能設定</td></tr><tr><td>05 着信機能設定</td></tr></table>	データ設定	01 ネットワーク情報	02 サーバ登録情報	03 SIP制御情報	04 発信機能設定	05 着信機能設定						
データ設定													
01 ネットワーク情報													
02 サーバ登録情報													
03 SIP制御情報													
04 発信機能設定													
05 着信機能設定													
	<p>手順3: [△(音量)]ボタンまたは[▽(音量)]ボタンで設定する項目を選択し、[設定/決定]ボタンを押します。 ・先頭の数字をダイヤルボタンで押しても設定する項目を選択できます。</p> <table border="1" data-bbox="699 1247 1123 1462"><tr><td>データ設定</td></tr><tr><td>06 保留機能設定</td></tr><tr><td>07 プログラムマブルキー設定</td></tr><tr><td>08 音声通信機能設定</td></tr><tr><td>09 情報表示サーバ設定</td></tr><tr><td>99 保守</td></tr></table>	データ設定	06 保留機能設定	07 プログラムマブルキー設定	08 音声通信機能設定	09 情報表示サーバ設定	99 保守						
データ設定													
06 保留機能設定													
07 プログラムマブルキー設定													
08 音声通信機能設定													
09 情報表示サーバ設定													
99 保守													
	<p>手順4: 順次表示内容に従い、必要な項目を選択し、データを設定します。</p> <table border="1" data-bbox="699 1543 1123 1758"><tr><td>プログラムマブルキー設定</td></tr><tr><td>06 未使用</td></tr><tr><td>07 未使用</td></tr><tr><td>08 未使用</td></tr><tr><td>09 未使用</td></tr><tr><td>10 未使用</td></tr></table> <p>・「ワンタッチダイヤル」の機能を選択し、[設定/決定]ボタンを押します。 （プログラマブルキーの設定をクリアする場合、「99 未使用」を選択します。）</p> <table border="1" data-bbox="699 1839 1123 2054"><tr><td>プログラムマブルキー設定</td></tr><tr><td>01 ワンタッチダイヤル</td></tr><tr><td>02 外線ダイヤルイン着信</td></tr><tr><td>03 代表着信</td></tr><tr><td>04 ハーク保留</td></tr><tr><td>05 盗聴防止</td></tr></table>	プログラムマブルキー設定	06 未使用	07 未使用	08 未使用	09 未使用	10 未使用	プログラムマブルキー設定	01 ワンタッチダイヤル	02 外線ダイヤルイン着信	03 代表着信	04 ハーク保留	05 盗聴防止
プログラムマブルキー設定													
06 未使用													
07 未使用													
08 未使用													
09 未使用													
10 未使用													
プログラムマブルキー設定													
01 ワンタッチダイヤル													
02 外線ダイヤルイン着信													
03 代表着信													
04 ハーク保留													
05 盗聴防止													

(次ページに続く)

5. データ設定 (電話機からの設定)

	<p>・ダイヤルボタンで電話帳のメモリ番号([0][0][0]~[4][9][9])を入力し、 [設定/決定]ボタンを押します。</p> <div data-bbox="699 304 1120 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>フ ロク ラマ フ ル キ 設 定 09KEY: 01 ワンタッチダイヤル 025</p></div> <p>手順5: 設定が完了すると、「設定しました」のメッセージが表示されます。 ワンタッチダイヤルを設定する場合、あらかじめ該当する電話帳メモリへの登録が必要です。</p> <div data-bbox="699 640 1120 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>フ ロク ラマ フ ル キ 設 定 09KEY: 01 ワンタッチダイヤル 025 設 定 し ま し た</p></div>
<p>クリア/戻る</p> <div data-bbox="325 1003 475 1034" style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 14px; margin-left: 20px;"></div>	<p>手順6: データ設定を継続する場合は[クリア/戻る]ボタンを押します。 またデータ設定を終了する場合は[クリア/戻る]ボタンを約2秒間押します。 ・送受器をあげたり、[スピーカ]ボタンを押してもデータ設定を終了します。</p> <div data-bbox="699 976 1120 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>再 起 動 し ま す . . .</p></div>

お知らせ

次の事項は、本製品を取り扱ううえでの注意事項です。

- 操作の途中で、約60秒以内に次の操作を行わなかった場合、設定を中止し、待機状態に戻ります。
設定済みの場合は、再起動します。
- 保守者モードでの設定項目は、本製品の動作にかかわる重要な項目です。これらのデータ設定において、不適切な値を設定したり、不用意に設定値を変更したりすると、正常に接続できなくなることがありますので注意してください。また、これらのデータ設定内容の控えを記録し、いつでも元の状態に戻せるようにしておくことをおすすめします。

お願い

次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- 設定データの詳細は、“8. 1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名”を参照してください。また既存ネットワークへ接続する場合、ネットワークの管理者に接続条件を確認してください。
- データ設定の途中で、電源やLANケーブルを抜かないでください。

5. データ設定 (電話機からの設定)

●ユーザモードでのデータ設定

ユーザモードでは、個々の電話機の動作形態を設定します。

次の操作でユーザモードの設定画面を表示し、画面に従って必要な項目を設定します。

(以下の説明では、代表グループ02に着信音Bを設定する場合を例示します。)

<p style="text-align: center;">メニュー</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>	<p>手順1: 待機状態から[メニュー]ボタンを押すと、「ユーザモード」の設定画面が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">データ設定</p> <p>01 表示設定</p> <p>02 通知音設定</p> <p>03 発信機能設定</p> <p>04 着信機能設定</p> <p>05 着信音設定</p> </div>
	<p>手順2: [△(音量)]ボタンまたは[▽(音量)]ボタンで設定する項目を選択し、[設定/決定]ボタンを押します。</p> <p>・先頭の数字をダイヤルボタンで押しても設定する項目を選択できます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">データ設定</p> <p>01 表示設定</p> <p>02 通知音設定</p> <p>03 発信機能設定</p> <p>04 着信機能設定</p> <p>05 着信音設定</p> </div>
	<p>手順3: 選択肢(詳細項目)が表示されたら、同様に項目を選択します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">着信音設定</p> <p>01 内線着信音</p> <p>02 ダイヤルイン着信音</p> <p>03 代表着信音</p> <p>04 トアホン着信音</p> <p>05 ハーチャルライン着信音</p> </div>
	<p>手順4: 順次表示内容に従い、必要な項目を選択し、データを設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">代表着信音</p> <p>01 グループ 01</p> <p>02 グループ 02</p> <p>03 グループ 03</p> <p>04 グループ 04</p> <p>05 グループ 05</p> </div> <p>・「着信音B」を選択し、[設定/決定]ボタンを押します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">代表着信音</p> <p>グループ 02 着信音 A</p> <p>00 鳴動なし</p> <p>01 着信音 A</p> <p>02 着信音 B</p> <p>03 着信音 C</p> </div>
	<p>手順5: 設定が完了すると、「設定しました」のメッセージが表示されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">代表着信音</p> <p>グループ 02 着信音 B</p> <p>設定しました</p> </div>

(次ページに続く)

5. データ設定 (電話機からの設定)

クリア/戻る



手順6: データ設定を継続する場合は[クリア/戻る]ボタンを押します。
またデータ設定を終了する場合は[クリア/戻る]ボタンを約2秒間
押します。
・送受器をあげたり、[スピーカ]ボタンを押してもデータ設定を終了します。

お知らせ

次の事項は、本製品を取り扱ううえでの注意事項です。

- 操作の途中で、約60秒以内に次の操作を行わない場合、設定を中止し、待機状態に戻ります。
- データ設定内容の控えを記録し、いつでも元の状態に戻せるようにしておくことをおすすめします。

お願い

次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

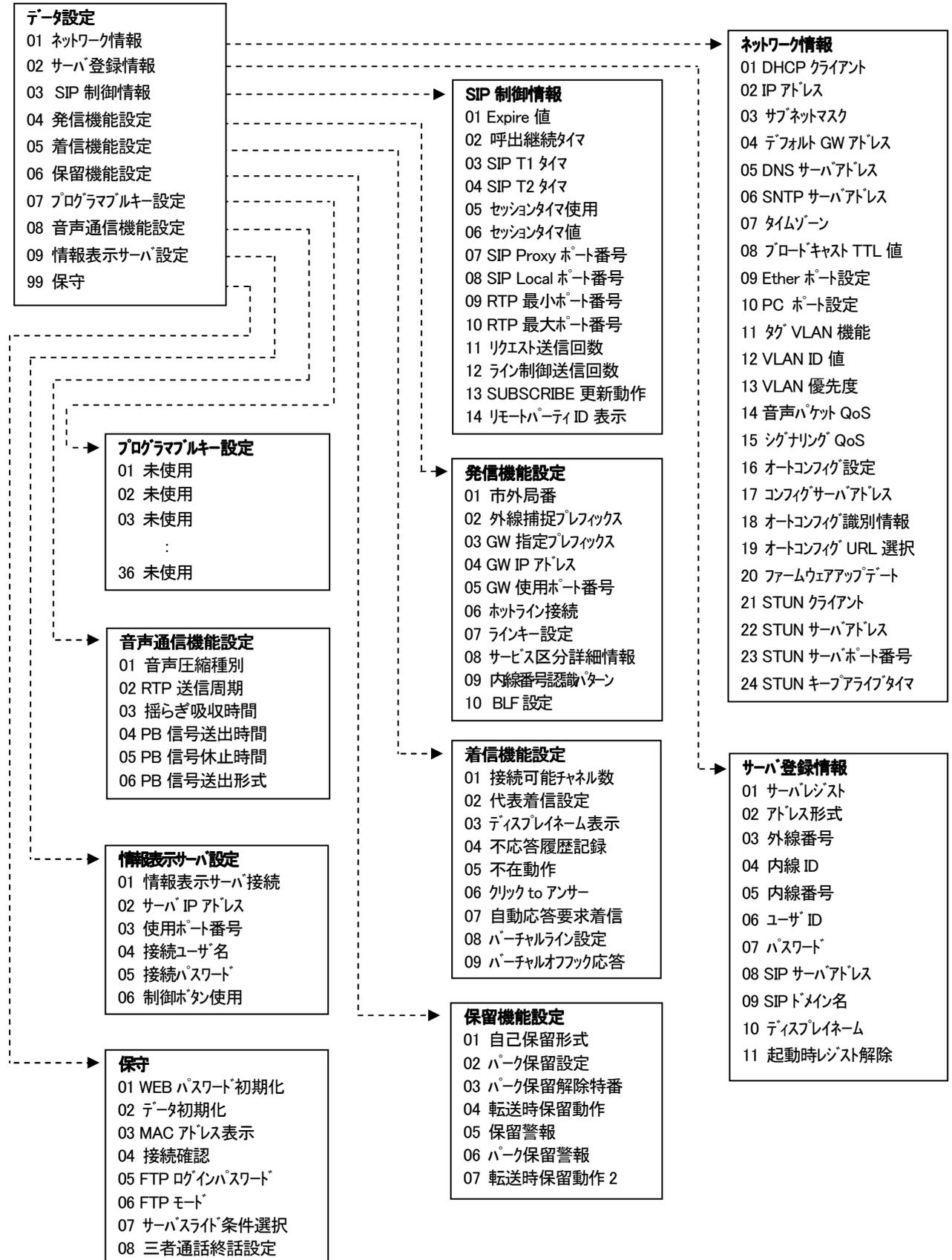
- 設定データの詳細は、“8. 1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名”を参照してください。
- データ設定の途中で、電源やLANケーブルを抜かないでください。

5. データ設定 (電話機からの設定)

5.2 設定画面の構成

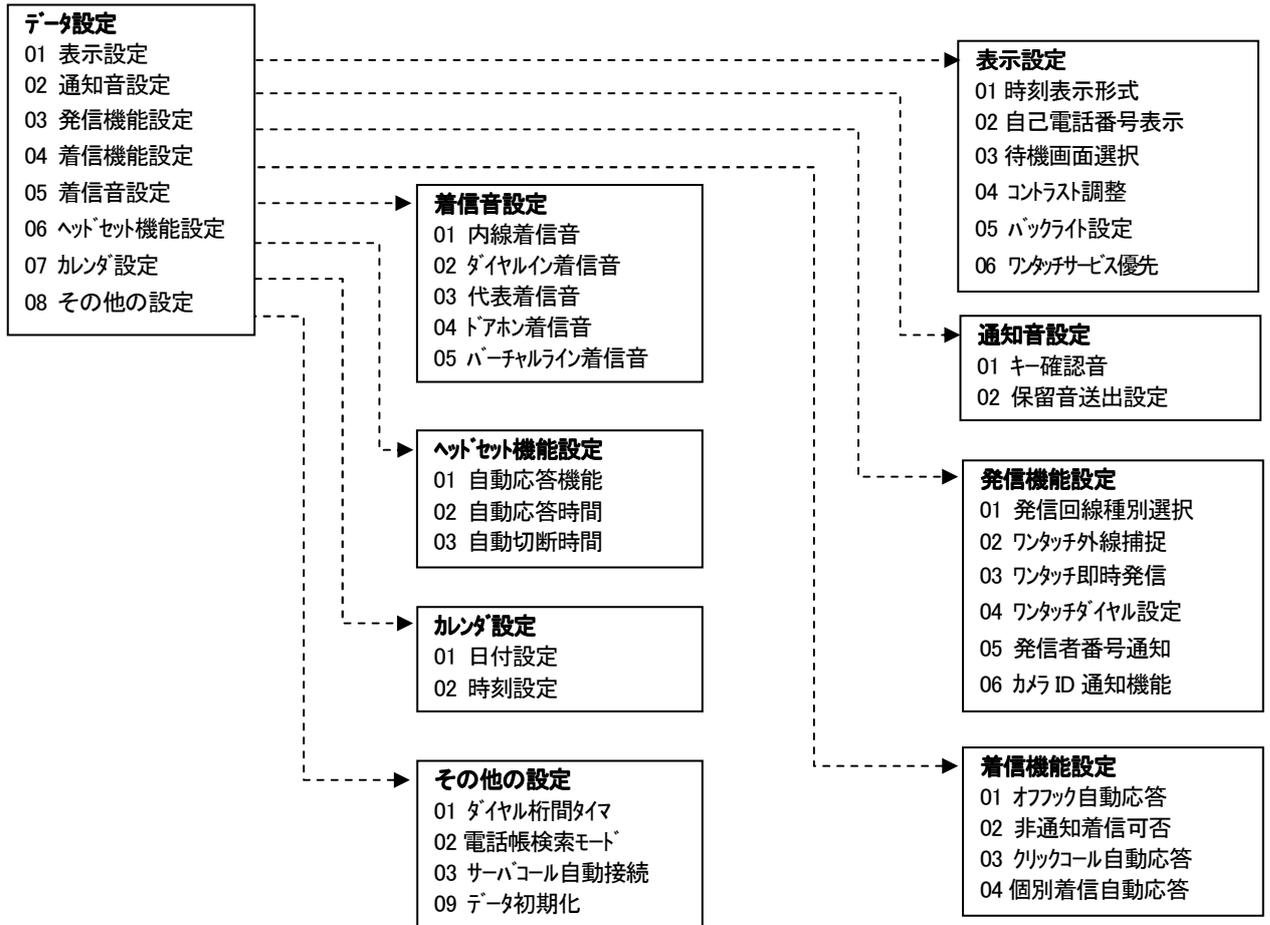
データ設定画面のイメージは次の通りです。(各設定内容の詳細は、“8.1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名”を参照してください。)

●保守者モード



5. データ設定 (電話機からの設定)

● ユーザモード



6. データ設定 (パソコンからの設定)

6.1 データ設定の方法 (設定ファイルの編集と書き込み)

ここでは、ネットワーク接続されたパソコンから電話機に接続して、必要な動作パラメータが記述された「設定ファイル」を投入する方法について説明します。(電話帳を含むすべてのデータを一括して登録することができます。)

●ログインとベースファイルの読出し

手順1: 対象となる電話機(1台)をネットワークに接続し、電話機を起動します。

手順2: パソコンのコマンドプロンプト画面から、次のコマンドを入力し、電話機との接続を確認します。

コマンド(例): **ping 192.168.1.50** [enter] (下線部は電話機のIPアドレス)

・接続確認ができないと”宛先ホストに到達できません。”要求がタイムアウトしました。”や

”Request timed out”、”Destination host unreachable”が表示されます。このような場合、対象となる電話機やパソコンのネットワーク接続条件を確認してください。

・電話機のIPアドレスの確認は、電話機設定(保守者モード)の”01 ネットワーク情報-02 IPアドレス”の操作を行います。

手順3: FTPクライアントを起動後、ユーザIDとパスワードを入力し、目的の電話機にログインします。(注1)(注2)

コマンド(例): **ftp 192.168.1.50** [enter] (下線部は電話機のIPアドレス)

ユーザID : **system_mgr** [enter]

パスワード : **system_mgr** [enter] (画面に表示されません)

手順4: 次のコマンドを入力して、設定データのベースファイルを読出します。

コマンド(例): **get system.txt** [enter]

手順5: 設定データの読出しが完了したら、次のコマンドを入力し、FTP接続を解除します。

コマンド(例): **bye** [enter]

(表示例)

```
C:\WINDOWS> ping 192.168.1.50 ...【手順2】

Pinging 192.168.1.50 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.1.50: bytes=32 time=22ms TTL=255
Reply from 192.168.1.50: bytes=32 time=20ms TTL=255
Reply from 192.168.1.50: bytes=32 time=18ms TTL=255
Reply from 192.168.1.50: bytes=32 time=20ms TTL=255

Ping statistics for 192.168.1.50:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0, (0% loss)
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 18ms, Maximum = 22ms, Average = 20ms

C:\WINDOWS> ftp 192.168.1.50 ...【手順3】
Connected to 192.168.1.50.
220 FTP server ready.
User (192.168.1.50 (none)): system_mgr ...【手順3】
331 User okay, need password.
Password: ...【手順3】
230 User logged in, proceed.
ftp> get system.txt ...【手順4】
200 Command okay.
150 about to open data connection.
226 Closing data connection.
ftp: 13860 bytes received in 0.28Seconds 49.5kbytes/sec.
ftp> bye ...【手順5】
221 Closing control connection.
```

注1: データ設定中など、待機中以外ではログインすることはできません。

注2: パスワードの変更は、電話機設定(保守者モード)の”99 保守-05 FTP ログインパスワード”で変更できます。

6. データ設定 (パソコンからの設定)

●設定ファイルの編集

手順6: 読出した設定ファイル(system.txt)をエディタで開きます。

(ファイル構成例)

```
S01949502D44415441474154452D50484F4E452053595354454D39 (ヘッダ)
<autocall>0</autocall>
<autodisc>2</autodisc>
<registrarserver>1</registrarserver>
<use_session>1</use_session>
<multi711>2</multi711>
<sipfirst>0</sipfirst>
<sip_interval>4</sip_interval>
<packet_qos>40</packet_qos>
<signaling_qos>40</signaling_qos>
:
<keytone>1</keytone>
<onetouch>0</onetouch>
<hotline>0</hotline>
:
<ca_ipadr>192.168.1.168</ca_ipadr>
:
<ipadr>192.168.1.50</ipadr>
<gwadr>192.168.1.1</gwadr>
<subnetmask>255.255.255.0</subnetmask>
:
<onekey1>999</onekey1>
<onekey2>999</onekey2>
<onekey3>999</onekey3>
<onekey4>999</onekey4>
:
<tel_dir0>0272531111,マエハシシテン,前橋支店,1</tel_dir0>
<tel_dir1>05001234567,トウキョウホンシャ,東京本社,1</tel_dir1>
<tel_dir2>,,,1</tel_dir2>
<tel_dir3>,,,1</tel_dir3>
:
<park_grp1></park_grp1>
<park_grp2></park_grp2>
<park_grp3></park_grp3>
<park_grp4></park_grp4>
:
```

(ネットワーク情報
及びサーバ登録情報)

(プログラマブルキー)

(電話帳データ)

※設定ファイルには、「保守者モード」と「ユーザモード」の両方の設定項目が含まれています。
(電話帳やプログラマブルキー(ワンタッチダイヤル)等の内容も設定することができます。)

手順7: エディタで必要なパラメータを編集し、パソコン上に保存します。

- ・次のようにタグで挟まれた部分を編集します。
(例) <keytone>0</keytone> (下線部を編集)

- ・ヘッダ部(S01949502D で始まる部分)は変更/消去しないでください。
- ・ヘッダと必要な項目(タグ)のみでパラメータファイルを構成することができます。
(タグを追加/削除する場合は、行単位で編集してください。)
- ・設定項目によって、入力可能な値やデータ形式に制限があります。詳しくは、本書の「8.1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名」を参考にしてください。

6. データ設定 (パソコンからの設定)

●設定ファイルの書込みとログアウト

手順8: FTPクライアントを起動後、ユーザIDとパスワードを入力し、目的の電話機にログインします。(注1)

コマンド(例): `ftp 192.168.1.50` [enter] (下線部は電話機のIPアドレス)

ユーザID : `system_mgr` [enter]

パスワード : `system_mgr` [enter] (画面に表示されません)

手順9: 次のコマンドを入力して、編集した設定ファイルを書込みます。(注2)

コマンド(例): `put system.txt` [enter] (異なるファイル名でも可)

・本例では、書込むファイルデータをカレントディレクトリに保存した場合を示します。

手順10: データ転送が終了したら、次のコマンドを入力し、FTP接続を解除します。

コマンド(例): `bye` [enter]

手順11: 以上でデータ設定は完了です。電話機は自動的に再起動されます。

・電話機には、「保守接続」→「データ受信中。」→「保守接続」→「再起動します...」のメッセージが表示されます。

(表示例)

```
C:¥WINDOWS> ftp 192.168.1.50 ...【手順8】
Connected to 192.168.1.50.
220 FTP server ready.
User (192.168.1.50 (none)): system_mgr ...【手順8】
331 User okay, need password.
Password: ...【手順8】
230 User logged in, proceed.
ftp> put system.txt ...【手順9】
200 Command okay.
150 about to open data connection.
226 Closing data connection.
ftp: 13860 bytes sent in 0.39Seconds 35.5kbytes/sec.
ftp> bye ...【手順10】
221 Closing control connection.

C:¥WINDOWS>
```

注1: パスワードの変更は、電話機設定(保守者モード)の“99 保守-05 FTP ログインパスワード”で変更できます。

注2: 手順9で設定ファイルを書込む際に、設定項目のパラメータに誤った値が編集されている場合、FTP モードの設定によって電話機への登録動作が異なります。

モード B(初期値)の場合: 誤った設定項目の値は登録されず、正しい設定項目の値のみ登録されます。

モード A の場合: 全ての設定項目の値が登録されません。(正しい設定項目の値も登録されず、電話機に反映されません。)

お願い

次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- 上記の設定項目は、本製品を使用可能な状態とするために、重要なパラメータです。また設定ファイルにおいて、その他の項目が表示されることがあります。不適切な値が設定されたり、不用意に設定値を変更されると正常に接続できなくなることがありますので注意してください。また、これらのデータ設定内容の控えを記録し、いつでも元の状態に戻せるようにしておくことをおすすめします。
- 設定ファイルの読出しや書込み操作中に、電話機やパソコンの電源、LANケーブルを抜かないでください。

7. ファームウェアのアップデート

ここでは、ネットワーク接続されたパソコンから電話機に接続して、ファームウェアを更新する方法について説明します。
(プログラムファイル等の更新情報は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。)

手順1: 対象となる電話機(1台)をネットワークに接続し、電話機を起動します。

手順2: パソコンのコマンドプロンプト画面からFTPクライアントを起動し、ユーザIDとパスワードを入力し、目的の電話機にログインします。(注1)

コマンド(例): `ftp 192.168.1.50` [enter] (下線部は電話機のIPアドレス)

ユーザID : `system_mgr` [enter]

パスワード : `system_mgr` [enter] (画面に表示されません)

・接続できないときは、上記の入力値の他、電話機やパソコンのネットワーク接続状態を確認してください。

・対象電話機のIPアドレスの確認は、電話機設定(保守者モード)の"01 ネットワーク情報-02 IPアドレス"の操作で行います。

手順3: 次のコマンドを入力して、プログラムファイルを書込みます。

コマンド(例): `put *.s` [enter] (下線部は、更新用プログラムファイルの名称です)

・本例では、書込むプログラムファイルをカレントディレクトリに保存した場合を示します。

手順4: プログラムファイルの書込みが完了したら、次のコマンドを入力するとFTP接続を解除し自動的に再起動します。

コマンド(例): `bye` [enter]

・電話機には、「保守接続」→「データ受信中。」→「データ更新中。」→「保守接続」→「再起動します。」のメッセージが表示されます。

(表示例)

```
C:\WINDOWS> ftp 192.168.1.50 ...【手順2】
Connected to 192.168.1.50.
220 FTP server ready.
User (192.168.1.50 (none)): system_mgr ...【手順2】
331 User okay, need password.
Password: ...【手順2】
230 User logged in, proceed.
ftp> put *.s ...【手順3】
200 Command okay.
150 about to open data connection.
226 Closing data connection.
ftp: 3763206 bytes sent in 15.69Seconds 239.88kbytes/sec.
ftp> bye ...【手順4】
221 Closing control connection.
```

注1: パスワードの変更は、電話機設定(保守者モード)の"99 保守-05 FTP ログインパスワード"で変更できます。

お願い

次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- プログラムファイルの転送や更新が頻繁に失敗する場合、直接対象の電話機とパソコンを接続して行ってください。
- プログラムファイルの書込み操作中に、電話機やパソコンの電源やLANケーブルを抜かないでください。

8. 付録

8.1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名

●保守者モードの設定項目

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値																																																													
《ネットワーク情報》																																																																
01	01	— DHCPクライアント <dhcp>	DHCPサーバからネットワーク接続条件 (IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトGWアドレス)を自動的に割当(取得)するか、手動で設定するかを指定します 【設定範囲】 0:無効 (DHCPを使用しない) 1:有効 (DHCPを使用する)	1:有効																																																												
	02	— IPアドレス <ipadr>	IPアドレスを指定します 【設定範囲】 000.000.000.000～223.255.255.255 設定不可のIPアドレスの範囲は、下記の通り ・クラスAの場合 (000.000.000.000 ～ 127.255.255.255) <table border="1"> <thead> <tr> <th>1オクテット</th> <th>2オクテット</th> <th>3オクテット</th> <th>4オクテット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>000</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> </tr> <tr> <td>127</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> </tr> <tr> <td>XXX</td> <td>255</td> <td>255</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>XXX</td> <td>000</td> <td>000</td> <td>000</td> </tr> </tbody> </table> ・クラスBの場合 (128.000.000.000 ～ 191.255.255.255) <table border="1"> <thead> <tr> <th>1オクテット</th> <th>2オクテット</th> <th>3オクテット</th> <th>4オクテット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>128</td> <td>000</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> </tr> <tr> <td>191</td> <td>255</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> </tr> <tr> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>255</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>000</td> <td>000</td> </tr> </tbody> </table> ・クラスCの場合 (192.000.000.000 ～ 223.255.255.255) <table border="1"> <thead> <tr> <th>1オクテット</th> <th>2オクテット</th> <th>3オクテット</th> <th>4オクテット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>192</td> <td>000</td> <td>000</td> <td>XXX</td> </tr> <tr> <td>223</td> <td>255</td> <td>255</td> <td>XXX</td> </tr> <tr> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>XXX</td> <td>000</td> </tr> </tbody> </table>	1オクテット	2オクテット	3オクテット	4オクテット	000	XXX	XXX	XXX	127	XXX	XXX	XXX	XXX	255	255	255	XXX	000	000	000	1オクテット	2オクテット	3オクテット	4オクテット	128	000	XXX	XXX	191	255	XXX	XXX	XXX	XXX	255	255	XXX	XXX	000	000	1オクテット	2オクテット	3オクテット	4オクテット	192	000	000	XXX	223	255	255	XXX	XXX	XXX	XXX	255	XXX	XXX	XXX	000	192.168.001.050 (DHCP クライアント無効時の初期値)
1オクテット	2オクテット	3オクテット	4オクテット																																																													
000	XXX	XXX	XXX																																																													
127	XXX	XXX	XXX																																																													
XXX	255	255	255																																																													
XXX	000	000	000																																																													
1オクテット	2オクテット	3オクテット	4オクテット																																																													
128	000	XXX	XXX																																																													
191	255	XXX	XXX																																																													
XXX	XXX	255	255																																																													
XXX	XXX	000	000																																																													
1オクテット	2オクテット	3オクテット	4オクテット																																																													
192	000	000	XXX																																																													
223	255	255	XXX																																																													
XXX	XXX	XXX	255																																																													
XXX	XXX	XXX	000																																																													
	03	— サブネットマスク <subnetmask>	サブネットマスクを指定します 【設定範囲】 000.000.000.000～255.255.255.255	255.255.255.000 (DHCP クライアント無効時の初期値)																																																												
	04	— デフォルトGWアドレス <gwadr>	デフォルトGWアドレスを指定します 【設定範囲】 000.000.000.000～255.255.255.255	000.000.000.000																																																												
	05	— DNS サーバアドレス(1) <dns_1>	DNS サーバアドレス(1)を指定します 【設定範囲】 000.000.000.000～255.255.255.255	000.000.000.000																																																												
		— DNS サーバアドレス(2) <dns_2>	DNS サーバアドレス(2)を指定します 【設定範囲】(注1) 000.000.000.000～255.255.255.255																																																													
	06	— SNTP サーバアドレス <sntp_adr>	SNTPサーバアドレスを指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0～63桁) ※使用可能な記号 @-?!\$&'()*+.=~/#	(なし)																																																												

注1: DNS サーバアドレス(1)の登録を行わないと DNS サーバアドレス(2)の登録はできません。

8. 付録

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《ネットワーク情報》				
01	07	— タイムゾーン <tim_zone>	標準時刻を指定します 【設定範囲】 [符号] — {時} : {分} 0: 正/1: 負 — 00~13 : 00/30/45	0-09:00 (GMT)
	08	— ブロードキャストTTL値 <broadcast_ttl>	IPブロードキャストのTTL値を指定します 【設定範囲】 1~64	16
	09	— Etherポート設定 <ether>	Etherポート、PCポートの通信形式を指定します 【設定範囲】	0: 自動認識
	10	— PCポート設定 <pc_ether>	0: 自動認識 1: 10M/半二重、2: 10M/全二重 3: 100M/半二重、4: 100M/全二重 9: 使用しない(PCポート設定のみ)	0: 自動認識
	11	— タグVLAN機能 (注1) <use_vlan>	VLANタグ機能の使用有無を指定します 【設定範囲】 0: 使用しない 1: パターン 1(電話機のみ) 2: パターン 2(電話機+PC)	0: 使用しない
	12	0 VLAN ID値(ID0) (注2) <vlan_id0>	ID0のVLAN ID値を指定します 【設定範囲】 1~4094	0001
		1 VLAN ID値(ID1) (注2) <vlan_id1>	ID1のVLAN ID値を指定します 【設定範囲】 1~4094	0002
	13	0 VLAN優先度(HUBポート) <vlan_priority0>	VLAN優先度(HUBポート)を指定します 【設定範囲】 0(優先順位低い)~7(優先順位高い)	7
		1 VLAN優先度(PC→HUBポート) <vlan_priority1>	VLAN優先度(PC→HUBポート)を指定します 【設定範囲】 0(優先順位低い)~7(優先順位高い)	0
	14	— 音声パケットQoS <packet_qos>	音声パケットQoSの優先度を指定をします 【設定範囲】 0(低い)~63(高い)	40
	15	— シグナリングQoS <signaling_qos>	シグナリングQoSの優先度を指定をします 【設定範囲】 0(低い)~63(高い)	40
	16	— オートコンフィグ設定 <autoconfig>	オートコンフィグ設定の使用有無を指定します 【設定範囲】 0: 無効 1: 有効	0: 無効
	17	— コンフィグサーバアドレス <config_addr>	コンフィグサーバアドレスを指定します 【設定範囲】 000.000.000.000~255.255.255.255	000.000.000.000
	18	— オートコンフィグ識別情報 <config_info>	オートコンフィグ識別情報を指定します 【設定範囲】 0: MACアドレス 1: 内線番号	0: MACアドレス

注1: VLAN使用形態及び設定については、「8.4 VLAN使用形態」を参照してください。

注2: VLAN ID値は、ID0、ID1で重複して設定することができません。

8. 付録

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《ネットワーク情報》				
01	19	— オートコンフィグURL選択 (注1) <config_url>	オートコンフィグの URL のパターンを指定します 【設定範囲】 0: パターン 0 1: パターン 1	1: パターン 1
	20	— ファームウェアアップデート <firmware_updata>	ファームウェアの自動更新有無を指定します 【設定範囲】 0: 無効 1: 有効	0: 無効
	21	— STUN クライアント <stun_client>	STUN サーバから WAN 側情報(グローバルIP アドレス、ポート番号)を取得するか指定します 【設定範囲】 0: 無効 (サーバを使用しない) 1: 有効 (サーバを使用する)	0: 無効
	22	— STUN サーバアドレス <stun_adr>	STUN サーバアドレスを指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0~63 桁) ※使用可能な記号 @-?!\$&()*+;=~./#	(なし)
	23	— STUN サーバポート番号 <stun_port>	STUN サーバポート番号を指定します 【設定範囲】 1024~65535	03478
	24	— STUN キープアライブタイム <stun_keep_time>	STUN サーバへの定期接続確認を行う間隔を指定します。 【設定範囲】 10~300 [秒]	010 [秒]
《サーバ登録情報》				
02	01	— サーバレジスト <registrarserver>	サーバ登録有無を指定します 【設定範囲】 0: 無効 (サーバに登録しない) 1: 有効 (サーバに登録する)	0: 無効
	02	— アドレス形式 <addressmode>	サーバに登録する際の形式を指定します 【設定範囲】 0: @IP アドレス 1: @サーバアドレス 2: @ドメイン名	1: @サーバ アドレス
	03	— 外線番号 <incoming>	外線番号を指定します 【設定範囲】 0~9、* (0~15 桁)	(なし)
	04	— 内線 ID(注2) <extension_id>	サーバに登録する内線 ID を指定します 【設定範囲】 半角英数字、*(0~32 桁)	(なし)
	05	— 内線番号 <extension>	内線番号を指定します 【設定範囲】 0~9、* (0~15 桁)	(なし)
	06	— ユーザID <sip_id1>	サーバ登録時のユーザIDを指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0~63 桁) ※使用可能な記号 @-?!\$&()*+;=~./#	(なし)

注1: 設定値は接続するサーバによって異なります。

注2: SIP メッセージ(to、from、contact ヘッダー)に英字の使用がない場合は、内線 ID の入力是不要になります。

詳細は、「8.6 SIP メッセージ(to、from、contact ヘッダー)とダイジェスト認証の認証 ID の登録」を参照してください。

8. 付録

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《サーバ登録情報》				
02	07	— パスワード <sip_pwd1>	サーバ登録時のパスワードを指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0~31桁) ※使用可能な記号 @-?!\$&()*+;~/	(なし)
	08	— SIPサーバアドレス(1) <ca_ipadr>	SIPサーバアドレス(1)を指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0~32桁)(注1) ※使用可能な記号 -?!\$&()*+;~/	(なし)
		— SIPサーバアドレス(2) <ip_ca2>	SIPサーバアドレス(2)を指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0~32桁)(注1) ※使用可能な記号 -?!\$&()*+;~/	(なし)
	09	— SIPドメイン名 <domain>	SIPドメイン名を指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0~63桁) ※使用可能な記号 @-?!\$&()*+;~/#	(なし)
	10	— ディスプレイネーム <disp>	電話番号以外の識別名称を指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号 (0~16桁) ※使用可能な記号 @-?!\$&()*+;~/#	(なし)
	11	— 起動時レジスト解除 <startup_unreg>	起動時レジスト解除の有無を指定します 【設定範囲】 0: 解除する 1: 解除しない	0: 解除する
《SIP制御情報》				
03	01	— Expire値 <registrartime>	サーバへの再登録周期を指定します 【設定範囲】 60~36000 [秒]	03600 [秒] (注2)
	02	— 呼出継続タイム <invite_timeout>	相手未応答時に発信中止する時間を指定します 【設定範囲】 60~9999 [秒]	0180 [秒]
	03	— SIP T1タイム <sipfirst>	SIP T1 タイムを指定します 【設定範囲】 0:500ms 1:1000ms 2:1500ms 3:2000ms (初期値のままとします)	0:500ms
	04	— SIP T2タイム <sip_interval>	SIP T2 タイムを指定します 【設定範囲】 4~10[秒] (初期値のままとします)	04 [秒]
	05	— セッションタイム使用 <use_session>	セッションタイムの使用有無を指定します 【設定範囲】 0: 使用しない 1: 使用する	0: 使用しない
	06	— セッションタイム値 <session_timer>	セッションタイム値を指定します 【設定範囲】 90~9999 [秒]	0300[秒]

注1: SIPサーバアドレスをIPアドレス形式で設定する場合は、ゼロサプレスした(アドレスに余分な0をつけない)内容で登録してください。

注2: Expire値の設定値は、600 秒以上を設定してください。

8. 付録

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《SIP制御情報》				
03	07	— SIP Proxyポート番号 <sip_proxy_port>	SIP Proxy ポート番号を指定します 【設定範囲】 1024～65535 (初期値のままとします)	05060
	08	— SIP Localポート番号 <sip_local_port>	SIP Local ポート番号を指定します 【設定範囲】 1024～65535 (初期値のままとします)	05060
	09	— RTP最小ポート番号 <rtp_rtcp_port_min>	RTP最小ポート番号を指定します 【設定範囲】 1024～65300 (初期値のままとします)	04000
	10	— RTP最大ポート番号 <rtp_rtcp_port_max>	RTP最大ポート番号を指定します 【設定範囲】 1024～65535 (初期値のままとします) (変更時は最小ポートより大きな値とします)	07000
	11	— リクエスト送信回数 <trans_times>	リクエスト送信回数を指定します 【設定範囲】 1～7 [回] (初期値のままとします)	4 [回]
	12	— ライン制御送信回数 <trans_line_times>	ライン制御送信回数を指定します 【設定範囲】 1～7 [回]	4 [回]
	13	— SUBSCRIBE 更新動作 <sip_re_subscribe>(注1)	SUBSCRIBE の更新動作を指定します 【設定範囲】 0: 新規リクエスト 1: 更新リクエスト	0: 新規リクエスト
	14	— リモートパーティID 表示 <remote_party_id>	Remote-Party-ID ヘッダに付与されている電話番号を表示するかを指定します 【設定範囲】 0: 表示しない 1: 表示する	0: 表示しない
《発信機能設定》				
04	01	— 市外局番 <area_code>	市外局番を指定します 【設定範囲】 0～6 桁(0～9)	(なし)
	02	— 外線捕捉プレフィックス(注2) (外線捕捉特番入力) <prefix>	外線を捕捉する特番値を指定します(注3) 【設定範囲】 0～1 桁(0～9)	0
		— 外線捕捉プレフィックス(注2) (外線捕捉自動付加) <add_prefix>	外線捕捉プレフィックス番号をダイヤル番号に付加するかを指定します 【設定範囲】 0: 無効 1: 有効	0: 無効

注1: ご使用になるSIPサーバの仕様に合わせて設定値を変更してください。

注2: 外線捕捉プレフィックスを別名で外線発信特番と記載しております。

注3: 外線捕捉プレフィックスの設定を“なし”にする場合は、ラインキーの設定が必要となります。

8. 付録

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《発信機能設定》					
04	03	—	GW指定プレフィックス <gwprefix>	GW発信時の特番値を指定します 【設定範囲】 0～1桁(0～9)	(なし)
	04	—	GW IPアドレス <gwaddress>	GWのIPアドレスを指定します 【設定範囲】 000.000.000.000～255.255.255.255	000.000.000.000
	05	—	GW 使用ポート番号 <gwport>	GWのSIPポート番号を指定します 【設定範囲】 1024～65535	05060
	06	—	ホットライン接続 <hotline>	ホットライン接続の有無を指定します 【設定範囲】 0:無効 (ホットライン機能を無効にします) 1:有効 (ホットライン機能を有効にします)	0:無効
	07	01 : 24	ラインキー設定(ラインポジション) <line_pos1～24>	ラインポジションを指定します 【設定範囲】 00～96	00
			ラインキー設定(発信捕捉) <line_hunt1～24>	発信捕捉するか否かを指定します 【設定範囲】 0:発信捕捉しない/ 1:発信捕捉する	0:発信捕捉しない
			ラインキー設定 (代表着信グループ番号) <line_repr1～24>	代表着信グループを指定します 【設定範囲】 01～24	00
	08	01 : 08	サービス区分詳細情報(注1) <ext_service1～8>	サービス区分詳細情報を指定します(注2) {サービス種別コード}{情報選択コード} {起動特番}{解除特番}{サービス種別名称} 【設定範囲】 サービス種別コード:00～24 (00:未使用) (01～08:待機中に起動するサービス) (09～16:使用中のラインキーに対して起動するサービス) (17～24:待機または通話中に起動するサービス) 情報選択コード:1～5桁(0～9、*、#) (注3)(注4) 起動特番:1～5桁(0～9、*、#)(注3) 解除特番:1～5桁(0～9、*、#)(注3) サービス種別名称:0～8 (対応した電話帳メモリの名称を表示します) (注5)	サービス種別コード:00 情報選択コード: 00000 起動特番:00000 解除特番:00000 サービス種別名称: :0

注1: サービス区分番号1～8の設定値をプログラマブルキーに登録した場合は、サービス種別コードの数値と情報選択コードの数値が同一にならないように設定してください。正常に運用ができなくなります。

注2: 使用するサーバによっては、情報選択コードが省略されることがあります。

そのようなシステムにおいて、サービス区分詳細情報に、重複したサービス種別コードを登録した場合は、情報選択コードによる判別を行わず、サービス種別コードが一致したサービス区分詳細情報の最若番のサービスが開始、停止されますので、サービス種別コードを重複しないように設定してください。

注3: 設定値はサーバ側設定によって異なります。

注4: サービス停止時、解除特番と情報選択コードで発信する場合は、情報選択コードの先頭に“#”を設定してください。解除特番のみで発信する場合は、情報選択コードの先頭に“#”を設定しないでください。

“#”は、先頭のみ設定可能です。

注5: 「サービス種別名称」の1～8は、電話帳No.191～No.198で登録した名称を表示します。

8. 付録

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《発信機能設定》				
04	09	01 : 20 内線番号認識パターン (内線認識番号) <naisen_pt_num1~20> 内線番号認識パターン (内線認識桁数) <naisen_pt_keta1~20>	内線番号認識パターンを指定します(注1) (注2) [内線番号認識][内線認識番号][内線認識桁数] 【設定範囲】 内線番号認識:01~20 内線認識番号:1~3 桁(0~9、*) 内線認識桁数:1~15	内線認識番号 :(なし) 内線認識桁数 :01
	10	01 : 24 BLF設定 (内線番号) <blf_no1~24>	プログラマブルキーに状態表示/発信したい 内線番号を指定します 【設定範囲】 内線番号:0~15 桁(0~9、*)	(なし)
《着信機能設定》				
05	01	— 接続可能チャンネル数 <enable_channel>	同時に受け付ける着信数を指定します 【設定範囲】 1~24 [チャンネル]	02 [チャンネル]
	02	01 : 24 代表着信設定(代表番号) <representative1~24>	代表番号を指定します 【設定範囲】 0~31 桁(0~9、*)	(なし)
		代表着信設定(オフフック応答) <represeofhk1~24>	オフフック応答するか否かを指定します 【設定範囲】 0: オフフック応答しない (プリセクションで回線を指定します) 1: オフフック応答する (オフフックで先着の回線に应答します) (内線個別着信や外線ダイヤルイン着信に は、本設定に関係なくオフフックで应答します)	0: オフフック応答 しない
	03	— ディスプレイネーム表示 <display_disp>	ディスプレイネーム情報の表示有無を指定し ます 【設定範囲】 0: 表示しない/ 1: 表示する (情報無しの場合は、電話番号を表示します)	1: 表示する
	04	— 不応答履歴記録 <called_his_save>	応答しなかった代表着信およびラインキー着 信を、着信履歴に保存するか否かを指定し ます 【設定範囲】 0: 記録しない/ 1: 記録する	0: 記録しない
	05	— 不在動作 <abs_form>	不在設定時の動作を指定します 【設定範囲】 0: 個別着信拒否/ 1: レジスト解除	0: 個別着信拒否
	06	— クリック to アンサー <click_to_answer>	パソコン操作で着信応答するかを指定し ます 【設定範囲】 0: 無効 1: 有効	0: 無効
07	— 自動応答要求着信 <arrive_instruction>	自動応答要求着信に対して自動応答する かを指定します 【設定範囲】 0: 無効 1: 有効	0: 無効	

注1: 内線番号認識パターンを有効にするには、外線捕捉プレフィックスの設定を“なし”にする必要があります。

注2: プリセットダイヤル、ワンタッチダイヤル、電話帳ダイヤル、履歴ダイヤル、ホットラインのみ設定が有効になります。

8. 付録

コマンド番号			区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《着信機能設定》					
05	08	01 : 24	バーチャルライン設定 (グループ番号) <virtual_grp1~24>	バーチャルライングループ番号を指定します 【設定範囲】 1~24 [グループ番号]	01 [グループ番号]
		01 : 24	バーチャルライン設定 (電話番号) <virtualtelnum1~24>	バーチャルライングループに登録する電話番号を指定します 【設定範囲】 0~31 桁(0~9、*)	(なし)
	09	01 : 24	バーチャルオフフック応答 <virtualofhk1~24>	オフフック応答するか否かを指定します 【設定範囲】 0:オフフック応答しない (プリセクションで回線を指定します) 1:オフフック応答する (オフフックで先着の回線に应答します) (内線個別着信や外線ダイヤルイン着信には、本設定に関係なくオフフックで应答します)	0:オフフック応答しない
《保留機能設定》					
06	01	—	自己保留形式 <hold_type>	自己保留形式を指定します 【設定範囲】 0:パーク保留/1:RTP保留/2:SDP保留1/ 3:SDP保留2/4:転送	2:SDP保留1
	02	01 : 24	パーク保留設定(注1) <park_grp1~24>	パーク保留位置番号(パークポジション)を指定します 【設定範囲】 0~6 桁(0~9)	(なし)
	03	—	パーク保留解除特番 <hold_pick_up>	パーク保留を解除する特番値を指定します (注2) 【設定範囲】 0~6 桁(0~9、*、#)	#60
	04	—	転送時保留動作 <hold_transfer>	転送実行時に転送先を保留するかを指定します 【設定範囲】 0:無効 1:有効	0:無効
	05	—	保留警報 <hold_time>	端末保留時の保留警報時間を指定します 【設定範囲】 0:警報なし/ 1:30秒/ 2:60秒/ 3:90秒/ 4:180秒	0:警報なし
	06	—	パーク保留警報 <park_time>	パーク保留時の保留警報時間を指定します 【設定範囲】 0:警報なし/ 1:30秒/ 2:60秒/ 3:90秒/4:180秒	0:警報なし
	07	—	転送時保留動作2 <hold_transfer2>	転送通話時に保留を受け付けるか否かを指定します 【設定範囲】 0:保留を受け付けない 1:保留を受け付ける	1:保留を受け付ける

注1:ラインキーでパーク保留を使用する場合、ラインキーと同じグループ番号で設定してください。

また、同一システム内に、パーク保留をラインキーで使用する電話機と、パーク保留ボタンのみで使用する電話機がある場合には同じポジション番号は設定しないでください。

注2:初期値を変更する場合、必ず値を設定してください。空欄のままですとパーク保留を使用することができません。

8. 付録

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《プログラマブルキー設定》				
07	01 : 36	プログラマブルキー01~36 <onekey1~36>	<p>各プログラマブルキーに機能を割り付けます (注1) {機能}</p> <p>【設定範囲】 2桁(01~12、14、99) (機能)</p> <p>01:ワンタッチダイヤル(電話帳 No. 000~499) 02:外線ダイヤルイン着信 03:代表着信(グループ番号 01~24) 04:パーク保留(グループ番号 01~24) 05:盗聴防止 06:外線発信 07:ヘッドセット使用 08:個別着信自動応答(注2) 09:不在 10:BLF (BLF 番号 01~24) 11:ワンタッチサービス特番 (サービス区分番号 1~8) 12:バーチャルライン(グループ番号 01~24) 14:ラインキー(ライン番号 01~24) 99:未使用</p> <p>設定ファイルにおけるパラメータ範囲 0~199:ワンタッチダイヤル (電話帳 No. 000~199) 1200~1499:ワンタッチダイヤル (電話帳 No. 200~499) 501:外線ダイヤルイン着信 201~224:代表着信(グループ番号 01~24) 301~324:パーク保留(グループ番号 01~24) 902:盗聴防止 500:外線発信 901:ヘッドセット使用 908:個別着信自動応答 909:不在 701~724:BLF (BLF 番号 01~24) 951~958:ワンタッチサービス特番 (サービス区分番号 1~8) 801~824:バーチャルライン (グループ番号 01~24) 601~624:ラインキー(ライン番号 01~24) 999:未使用</p>	99(999):未使用 (注3)

注1:ワンタッチダイヤル、代表着信以外で既に割り付けられている機能と同じ内容の機能を別のプログラマブルキーに割り付けた場合、または、ラインキーのライン番号とパーク保留のグループ番号が同一のプログラマブルキーを割り付けた場合は、新しく割り付けたプログラマブルキーが有効になり、過去に割り付けたプログラマブルキーは[未使用]に変更されます。

注2:[ヘッドセット使用]ボタンと重複して運用することはできません。

注3:PCから設定する場合は、パラメータ値が“999”になります。

8. 付録

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《音声通信機能設定》					
08	01	— 音声圧縮種別 <dakind_on>	音声圧縮種別を指定します 【設定範囲】 0:G.711 優先 1:G.729 優先	0:G.711 優先	
	02	— RTP送信周期 <multi711> <multi729A>	RTP送信周期を指定します 【設定範囲】 {G.711} {G.729} 02:(20ms)/03:(30ms)/04:(40ms) (初期値のままとします)	G.711:02(20ms) G.729:02(20ms)	
	03	— 揺らぎ吸収時間 <jitter711> <jitter729A>	揺らぎ吸収時間を指定します 【設定範囲】 {G.711} {G.729} G.711:000(自動)、010~300(ミリ秒) G.729:000(自動)、010~500(ミリ秒)	G.711:000(自動) G.729:000(自動)	
	04	— PB信号送出時間 <pptime>	PB信号送出時間を指定します 【設定範囲】 0:100ms 1:125ms 2:450ms 3:650ms	0:100ms	
	05	— PB信号休止時間 <pbminimum>	PB信号休止時間を指定します 【設定範囲】 0:100ms 1:125ms 2:200ms 3:250ms	0:100ms	
	06	1	PB信号送出形式(G711) <dtmf_sending_set711>	PB信号送出形式(G711)を指定します 【設定範囲】 0:トーン 1:RFC2833 2:トーン+INFO	0:トーン
		2	PB信号送出形式(G729) <dtmf_sending_set729>	PB信号送出形式(G729)を指定します 【設定範囲】 0:トーン 1:RFC2833 2:トーン+INFO	1:RFC2833

8. 付録

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《情報表示サーバ設定》				
09	01	— 情報表示サーバ接続 <asp_server>	情報表示サーバ接続の有無を指定します 【設定範囲】 0:無効 1:有効	0:無効
	02	— サーバIPアドレス <asp_ipadr>	情報表示サーバのIPアドレスを指定します 【設定範囲】 000.000.000.000～255.255.255.255	000.000.000.000
	03	— 使用ポート番号 <asp_port>	情報表示サーバのポート番号を指定します 【設定範囲】 1024～65535	51000
	04	— 接続ユーザ名 <asp_id>	情報表示サーバに接続するユーザ名を指定します 【設定範囲】 半角英数字 (0～6桁)	(なし)
	05	— 接続パスワード <asp_pwd>	情報表示サーバ接続時のパスワードを指定します 【設定範囲】 半角英数字 (0～6桁)	(なし)
	06	0 制御ボタン使用(プログラマブル キー32～35) <asp_ctrlkey1>	制御ボタン使用(プログラマブルキー32～35)の 使用有無を指定します 【設定範囲】 0:無効 1:有効	1:有効
	1	制御ボタン使用(十字・決定キー) <asp_ctrlkey2>	制御ボタン使用(十字・決定キー)の使用有無を 指定します 【設定範囲】 0:無効 1:有効	1:有効
	2	制御ボタン使用(ダイヤルキー) <asp_ctrlkey3>	制御ボタン使用(ダイヤルキー)の使用有無を指 定します 【設定範囲】 0:無効 1:有効	1:有効

8. 付録

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《保守》				
99	01	— WEB パスワード初期化 <<タグはありません>>	WEB のパスワードを初期化します 【設定範囲】 0:キャンセル 1:実行	—
	02	— データ初期化 <<タグはありません>>	設定データを初期化します 【設定範囲】 33: 保守者モードの設定をクリアします (電話帳を除く) 99: 電話帳内容のみをクリアします ##: 工場出荷状態に戻します (全データを初期化)	33
	03	— MACアドレス表示 <<タグはありません>>	MACアドレスを表示します	—
	04	— 接続確認 <<タグはありません>>	接続確認用のPINGコマンドを送出します 【設定範囲】 000.000.000.000~255.255.255.255 ([設定/決定]ボタンを押した後、4回PINGコマンドを送出し、レスポンス(応答時間)を表示します)	000.000.000.000
	05	— FTP ログインパスワード <ftp_pwd>	FTP ログインパスワードを指定します 【設定範囲】 半角英数字、記号(1~15桁) ※使用可能な記号 @-?!\$&'()*+;~./	system_mgr
	06	— FTP モード <ftpmode>	FTP モードを指定します 【設定範囲】 0:モード A 1:モード B	1:モード B
	07	— サーバスライド条件選択 <serverslide>	SIP サーバ(1)に障害が発生した場合に SIP サーバ(2)に移行する条件を指定します 【設定範囲】 0:スライド条件 A タイムアウトにより SIP サーバ(2)に移行します 1:スライド条件 B タイムアウト又は 5xx/6xx レスポンス受信で SIP サーバ(2)に移行します	0:スライド条件 A
	08	— 三者通話終話設定 <threetalk>	三者通話終話条件を指定します 【設定範囲】 0:主催者切断通話継続 1:主催者切断終話	0:主催者切断通話継続

8. 付録

●ユーザモードの設定項目

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《表示設定》			
01	01 ー 時刻表示形式 <dtdisp>	時刻表示の形式を指定します 【設定範囲】 0:12 時間制/ 1:24 時間制 (発着信履歴は 24 時間制で表示されます)	0:12 時間制
	02 ー 自己電話番号表示 <dendisp>	待機画面の自己電話番号表示有無を指定します 【設定範囲】 0:表示しない 1:表示する	1:表示する
	03 ー 待機画面選択 <extension_disp>	待機画面の表示を指定します 【設定範囲】 0:内線番号表示 1:ディスプレイネーム表示	0:内線番号表示
	04 ー コントラスト調整 <contrast>	LCD の濃淡を調節します 【設定範囲】 (薄い)0~8(濃い)(注 1)	4
	05 ー バックライト設定 <backlight>	バックライト設定を指定します 【設定範囲】 0:常時消灯 1:常時点灯 2:使用時点灯 (使用時点灯は、約20秒間点灯します)	2:使用時点灯
	06 ー ワンタッチサービス優先 <priority_disp>	優先的にLCDに情報表示するサービス区分を指定します 【設定範囲】 0(優先なし) 1~8(サービス区分 1~8)	0(優先なし)
《通知音設定》			
02	01 ー キー確認音 <keytone>	キー確認音の送出を指定します 【設定範囲】 0:送出しない 1:送出する	1:送出する
	02 ー 保留音送出設定 <sndht>	保留音の送出を指定します 【設定範囲】 0:送出しない 1:送出する	1:送出する
《発信機能設定》			
03	01 ー 発信回線種別選択 <cap_select>	オフフック操作時に発信する回線を指定します 【設定範囲】 0:内線発信 1:外線発信	0:内線発信
	02 ー ワンタッチ外線捕捉 <coi_cap>	プレフィックス番号入力時の動作を指定します 【設定範囲】 0:捕捉しない (プリセットダイヤル状態) 1:捕捉する (外線発信(DT送出)状態)	1:捕捉する

注1:LCD の濃淡を調節することができます。初期値で見えにくい場合、お好みの濃さに調節してください。

8. 付録

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《発信機能設定》				
03	03	— ワンタッチ即時発信 <onetouch>	ワンタッチダイヤルを押した時の動作を指定します 【設定範囲】 0: 発信しない (プリセットダイヤル状態) 1: 発信する (即時に発信を開始します)	0: 発信しない
	04 : 36	ワンタッチダイヤル設定 <onekey1~36>	ワンタッチダイヤルを指定します 【設定範囲】 電話帳 No.000~499 999: 未使用 (プログラマブルキー設定で別の機能が設定されている場合、「他使用中」と表示されます)	999: 未使用(注1)
	05	1 発信者番号通知(内線発信) <numnotice_on>	内線発信にて発信者番号を通知するか否かを指定します 【設定範囲】 0: 通知しない 1: 通知する	1: 通知する
		2 発信者番号通知(外線発信) <numnotice_off>	外線発信にて発信者番号を通知するか否かを指定します 【設定範囲】 0: 通知しない 1: 通知する	
	06	1 カメラ ID 通知機能 (ID 値指定) <camera_id>	発信及び応答時にカメラ位置情報通知IDを付加して送信します 【設定範囲】 (ID 値指定) 00~62	00(ID 値指定)
		2 カメラ ID 通知機能 (IP アドレス指定) <camera_ip>	発信及び応答時にカメラ位置情報通知IDを付加して送信します 【設定範囲】 (IP アドレス指定) 000.000.000.000~255.255.255.255	000.000.000.000 (IP アドレス指定)

注1: PCから設定する場合は、パラメータ値が“999”になります。電話機から設定する場合は、“999”を入力後のLCDの表示は“99”になります。

8. 付録

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《着信機能設定》				
04	01	－ オフフック自動応答 <ofhk_auto>	代表着信、ラインキー着信、バーチャルライン着信への応答動作を指定します 【設定範囲】 0: 応答しない (プリセクションで回線を指定します) 1: 応答する(オフフックで先着の回線に応答します) (内線個別着信や外線ダイヤルイン着信には、本設定に関係なくオフフックで応答します)	1: 応答する
	02	－ 非通知着信可否 <anonymous_call>	番号非通知着信の受付可否を指定します 【設定範囲】 0: 着信を拒否する 1: 着信を許容する	1: 着信を許容する
	03	－ クリックコール自動応答 <click_call>	クリックコール自動応答の有無を指定します 【設定範囲】 0: 応答しない 1: 応答する	0: 応答しない
	04	1 個別着信自動応答 (着信自動応答時間) <incoming_resttime>	個別着信時(ヘッドセット着信以外)に、自動で応答する時間及び切断時間を指定します (注1)(注2)(注3)	(着信自動応答時間) 2:6秒後に応答 (着信自動切断時間) 2:6秒後に切断
		2 個別着信自動応答 (着信自動切断時間) <incoming_autodisc>	【設定範囲】 (着信自動応答時間) 0: 即時応答 1: 3秒後に応答 2: 6秒後に応答 3: 9秒後に応答 4: 12秒後に応答 (着信自動切断時間) 0: 自動切断しない(60秒後) 1: 3秒後に切断 2: 6秒後に切断 3: 9秒後に切断 4: 12秒後に切断	
《着信音設定》				
05	01	－ 内線着信音 <internal_ring>	内線着信音の鳴動形態を指定します 【設定範囲】 00~11(00: 鳴動なし、01~08: 着信音 A~H、09: サーバ指示、10~11: 着信音 I~J)	01: 着信音 A
	02	－ ダイヤルイン着信音 <outside_ring>	ダイヤルイン着信音の鳴動形態を指定します 【設定範囲】 00~11(00: 鳴動なし、01~08: 着信音 A~H、09: サーバ指示、10~11: 着信音 I~J)	01: 着信音 A
	03	01 代表着信音 : <represent_ring1~24> 24	代表着信グループ毎の着信音の鳴動形態を指定します 【設定範囲】 00~11(00: 鳴動なし、01~08: 着信音 A~H、09: サーバ指示、10~11: 着信音 I~J)	01: 着信音 A
	04	1 ドアホン着信音 (ドアホン 1) <doorphone_ring1>	ドアホン 1 着信音の鳴動形態を指定します 【設定範囲】 1~4、9(1~4: 着信音 A~D、9: サーバ指示)	1: 着信音 A
		2 ドアホン着信音 (ドアホン 2) <doorphone_ring2>	ドアホン 2 着信音の鳴動形態を指定します 【設定範囲】 1~4、9(1~4: 着信音 A~D、9: サーバ指示)	2: 着信音 B

注1: 自動応答前に送受器をあげた場合は、自動応答されません。

注2: 自動切断時間は、個別着信時のみ有効です。

注3: 自動切断時間は、個別着信自動応答後のスピーカ受話、ハンズフリー通話時に相手から切断された場合に有効です。
スピーカ受話、ハンズフリー通話時に送受器をあげた場合は、自動切断は反映されません。

8. 付録

コマンド番号			区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《着信音設定》					
05	05	01 : 24	バーチャルライン着信音 <virtual_ring1~24>	バーチャルライングループ毎の着信音の鳴動形態を指定します 【設定範囲】 00~11(00:鳴動なし、01~08:着信音 A~H、09:サーバ指示、10~11:着信音 I~J)	01:着信音 A
《ヘッドセット機能設定》					
06	01	—	自動応答機能 <autocall>	ヘッドセット使用時、着信に自動応答するか否かを指定をします 【設定範囲】 0:自動応答しない 1:自動応答する	0:自動応答しない
	02	—	自動応答時間 <restime>	自動応答時間を指定します 【設定範囲】 0:即時応答 1:3秒後に応答 2:6秒後に応答 3:9秒後に応答 4:12秒後に応答	2:6秒後に応答
	03	—	自動切断時間 <autodisc>	自動切断時間を指定します 【設定範囲】 0:自動切断しない(60秒後) 1:3秒後に切断 2:6秒後に切断 3:9秒後に切断 4:12秒後に切断	2:6秒後に切断
《カレンダー設定》					
07	01	—	日付設定(年月日) <<タグはありません>>	日付(年 月 日)を指定します 【設定範囲】 {年}{月}{日} 年:00~99(西暦下2桁) 月:01~12 日:01~31	00年01月01日
	02	—	時刻設定(時分) <<タグはありません>>	時刻設定(時分)を指定します 【設定範囲】 {時}{分} 時:00~23(24時間制) 分:00~59	00時00分
《その他の設定》					
08	01	—	ダイヤル桁間タイマ <diptime>	自動でダイヤル発信するタイマを指定します 【設定範囲】 02~15[秒]	04[秒]
	02	—	電話帳検索モード <directory_search>	電話帳ボタンを押した時の動作を指定します 【設定範囲】 0:カナ検索 1:グループ検索	0:カナ検索
	03	—	サーバコール自動接続 <image_display_st1>	サーバコールの接続を指定します 【設定範囲】 0:手動接続 1:自動接続	0:手動接続
	09	—	データ初期化 <<タグはありません>>	設定データを初期化します 【設定範囲】 00:ユーザモードの設定をクリアします(電話帳、ワンタッチダイヤル、カレンダー設定を除く) 99:電話帳内容のみをクリアします	00

8. 付録

●電話帳データ

コマンド番号	区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値
《電話帳》			
—	—	000 電話帳(メモリ 000) <tel_dir0>	電話番号:(なし) フリガナ:(なし) 名称 : (なし) グループ:1
	:	499 電話帳(メモリ 499) <tel_dir499> (注1)	
		【設定範囲】 [電話番号] [フリガナ] [名称] [グループ番号](注2) (電話番号) 0~9,*,# (1~31桁) (注3) (フリガナ) 半角のカナ/エイ/スウ (1~15文字) (名称) 全角の漢/仮/英/数、半角のカナ/エイ/スウ(全角1~8文字(半角1~16文字)) (グループ番号) 1~9 (1桁)	

注1: メモリ番号=199は、ホットライン機能の発信先として使用されます。

注2: 設定ファイルで設定する場合は、次のように記述します。

(例) <tel_dir78>3000,マエハシコウジョウ,前橋工場,1</tel_dir78>

注3: #は、1桁目のみ入力可能です。

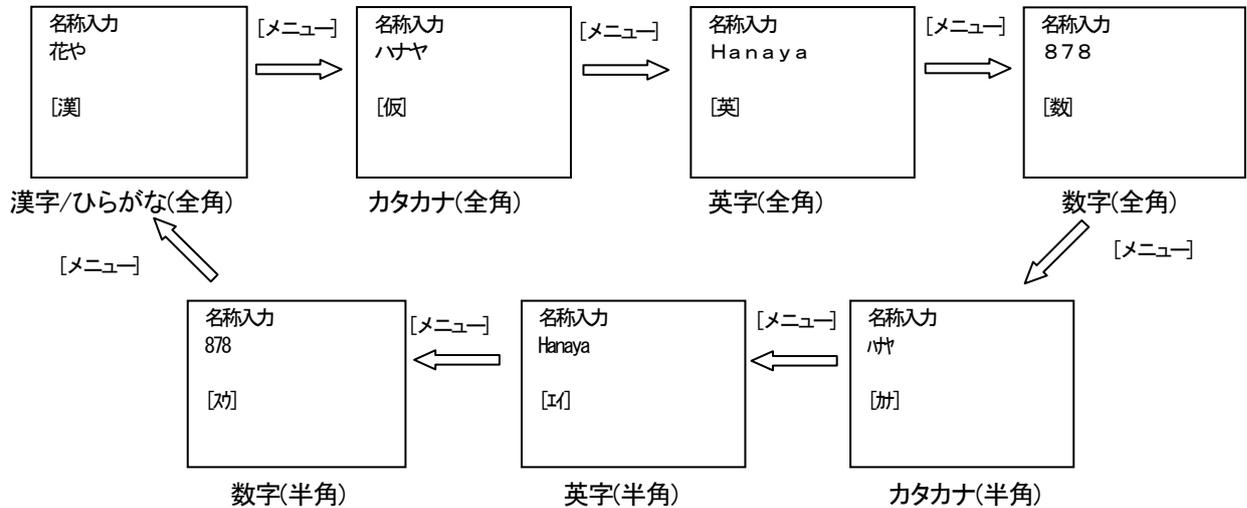
8. 付録

8.2 ダイアルボタンで文字を入力する

ここでは、データ設定や電話帳の登録操作などにおいて、各種文字を入力する方法について説明します。
(設定項目によっては、入力可能な文字や種別が限定されることがありますので、注意してください。)

●文字種別の切替

[メニュー]ボタンを押すことにより、次のように入力する文字種別が切替ります。



文字種別 ダイアル	ひらがな [漢]:全角	カタカナ [仮]:全角、[カ]:半角	英字 [英]:全角、[エイ]:半角	数字 [数]:全角、[スウ]:半角
① あ	あいうえおあいうえお	アイウエオアイウエオ		1
② かABC	かきくけこ	カキクケコ	abcABC	2
③ せDEF	さしすせそ	サシスセソ	defDEF	3
④ ちGHI	たちつてとっ	タチツテトッ	ghiGHI	4
⑤ なJKL	なにぬねの	ナニヌネノ	jklJKL	5
⑥ はMNO	はひふへほ	ハヒフヘホ	mnoMNO	6
⑦ ぱPQRS	まみむめも	マミムメモ	pqrsPQRS	7
⑧ やTUV	やゆよやゆよ	ヤユヨヤユヨ	tuvTUV	8
⑨ わWXYZ	らりるれろ	ラリルレロ	wxyzWXYZ	9
⑩ わ記号	わをん` (空白) — 。。	ワヲン ー、。！？「」(空白)	@: - _ ? ! " # \$ % & ' () * + ; < = > [¥] ^ { } ~ (注1) (空白)	0
✖ 。 °	`(濁点) °(半濁点)	`(濁点) °(半濁点)	. /	*
＃ スタート				#

(次ページに続く)

(注1):半角の場合は、「~」で表示します。

8. 付録

- ・同じボタンの文字を続けて入力する場合は、[▷(発信履歴)]ボタンを押して、入力位置を移動します。
- ・ひらがな[漢]モードでは、[△(音量)]ボタンまたは[▽(音量)]ボタンで入力文字の漢字の変換候補を表示し、[設定/決定]ボタンを押して確定します。
- ・半角カタカナ[カナ]モードでは、` (濁点) や ° (半濁点) も1桁分として入力されます。
- ・入力文字を訂正、消去する場合は、[クリア/戻る]ボタンを押します。
(短く押すと1桁消去され、約2秒間押すと全桁が消去されます。)
- ・ひらがな[漢]モード、全角カタカナ[仮]モードの ` (濁点) や ° (半濁点) は、有効文字のみ入力(付与)可能になります。

8. 付録

8.3 付加機能と特殊設定

●「ホットライン」機能を利用する場合

- ・電話帳への登録が必要となります。

機能名	機能概要	電話帳登録位置	電話帳登録内容
ホットライン	【ホットライン】発信先の登録	No.199	宛先の電話番号 (31桁以内)

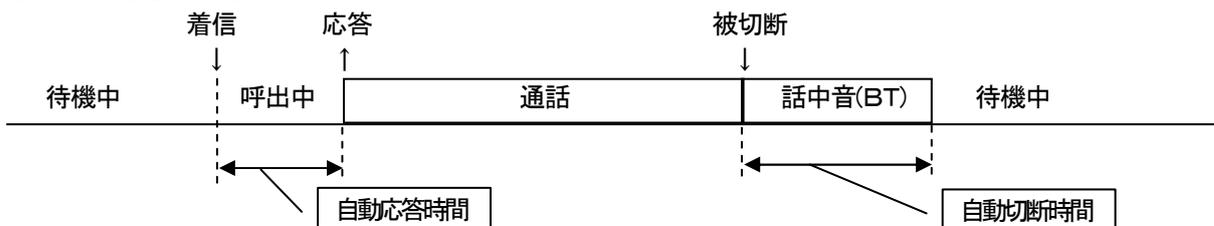
- ・「ホットライン」機能を有効にするためには、上記の他、保守者モードによるデータ設定で「ホットライン接続=1(有効)」とする必要があります。
- ・外線捕捉プレフィックス(外線発信特番)の外線捕捉特番入力に“0~9”を設定している場合、「ホットライン」機能を利用してラインキー発信することはできません。

●「ヘッドセット」を利用する場合

- ・本製品でヘッドセットを利用する場合は、ハンドセット用ジャックにヘッドセットのプラグを差替えて接続します。そのため、ヘッドセット利用時にはハンドセットによる通話はできません。
- また、プログラマブルキーの割付けや関連するデータ設定(自動応答/自動切断の時間)を行います。

機能名	設定区分	コマンド番号	設定値	備考
ヘッドセット	(保守者モードによるデータ設定) 【ヘッドセット使用】ボタンの登録	07- (プログラマブルキー)	07	
	(ユーザモードによるデータ設定) 自動応答機能の設定	06-01	0:自動応答しない 1:自動応答する	初期値:0
	自動応答時間の設定	06-02	0:(即時応答) ~ 4:(12秒後に応答)	3秒間隔
	自動切断時間の設定	06-03	0:(自動切断しない)~ 4:(12秒後に切断)	3秒間隔

(自動応答/自動切断の動作)



接続を保証しているヘッドセットは、下記サイトにて掲載しています。

http://www.nyc.co.jp/download/terms_main3.html

↑ TOP ページ ↑

※上記 URL に接続(アクセス)できない場合は、「TOP ページ」から「ダウンロード」にアクセスしてください。

8. 付録

8.4 VLAN使用形態

本製品では、VLAN機能として利用可能な形態が限られています。構成パターンとデータ設定は次の通りです。

1) VLAN未使用：電話機能部及びPCポートのいずれもVLAN機能を使用しない場合

接続系統図	設定項目	設定値の例
	タグVLAN機能	0：使用しない
	VLAN ID値	0-0001 1-0002

2) パターン1：電話機能部でVLANを使用し、PCポートはVLANを使用しない場合

接続系統図	設定項目	設定値の例
	タグVLAN機能	1：パターン1 (電話機のみ)
	VLAN ID値	0-0100 1-0002

3) パターン2：電話機能部とPCポートからのパケットにVLANタグを付加する場合

接続系統図	設定項目	設定値の例
	タグVLAN機能	2：パターン2 (電話機+PC)
	VLAN ID値	0-0100 1-0200

※ 除外パターン：PCポートにおいて、VLANタグが付加されたパケット転送はできません。

8. 付録

8.5 RAS機能

RAS機能は通話時のパケット情報をTELNETで確認できます。

●パケット情報表示方法

手順1: 対象となる電話機(1台)をネットワークに接続し、電話機を起動します。

手順2: パソコンのコマンドプロンプト画面からTELNETを起動し、パスワードを入力し、目的の電話機にログインします。

コマンド(例): **telnet 192.168.1.50** [enter] [enter] (下線部は電話機のIPアドレス)

パスワード: **system_mgr** [enter] (画面に表示されません)

・接続できないときは、上記の入力値の他、電話機やパソコンのネットワーク接続状態を確認してください。

手順3: 次のコマンドを入力して、パケット情報を表示します。

コマンド(例): **show packet 1** [enter] (下線部は最新から数えた通話履歴番号)(注1)

(表示例)

```
C:\WINDOWS> telnet 192.168.1.50 ...【手順2】
```

```
NAKAYO IP Phone TELNET
```

```
password: ...【手順2】
```

```
> show packet 1 ...【手順3】
```

```
SNPort = 100M/Full
```

```
PCPort = 100M/Full
```

```
Packet 1
```

```
CodecType = G. 711
```

```
PacketCountTx = 50401
```

```
PacketCountRx = 50290
```

```
JitterMin = 0
```

```
JitterMax = 0
```

```
RxDisc = 0
```

```
RxLost = 0
```

```
PartnerID = 1000 ← 通話相手の電話番号
```

```
PartnerIP = 192.168.1.51 ← サーバアドレスもしくは通話相手のアドレス
```

```
RtpSessionStart = 2009-01-01-Thu02:04:04+09:00 ← 通話開始時刻
```

```
RtpSessionStop = 00:12:34 ← 通話継続時間
```

```
RtpSessionCount = 1 ← RTPセッション数
```

```
>
```

注1: 下線部をallとすることで、最大100件の通話履歴について表示します。

8. 付録

●パケット情報表示内容一覧

名称	説明
SWPort	SW Port のネゴシエーション状態を表示します (10M/Half、10M/Full、100M/Half、100M/Full)
PCPort	PC Port のネゴシエーション状態を表示します (10M/Half、10M/Full、100M/Half、100M/Full、(なし):接続なし)
Packet	パケット情報番号を1(最新)~100(最古)で表示します
CodecType	コーデック情報を表示します (G. 711、G. 729A)
PacketCountTx	送信パケット数を表示します
PacketCountRx	受信パケット数を表示します
JitterMin	RTP パケット間の最小時間を表示します
JitterMax	RTP パケット間の最大時間を表示します
RxDisc	廃棄したパケット数を表示します
RxLost	欠落したパケット数を表示します
PartnerID	発信時は initial INVITE の To ヘッダの user info、 着信時は From の user info を表示します
PartnerIP	SDP に記述される RTP セッションの相手 IP アドレスを表示します
RtpSessionStart	RTP セッション開始時刻を表示します (年:月:日:曜日:時間:分:秒:UTC からの時差)
RtpSessionStop	RTP セッション継続時間を表示します (時間:分:秒)
RtpSessionCount	RTP セッション数を表示します

8. 付録

8.6 SIP メッセージ(to, from, contact ヘッダー)とダイジェスト認証の認証 ID の登録

・SIP メッセージ(to, from, contact ヘッダー)とダイジェスト認証の認証 ID は、電話機設定(保守者モード)の“02 サーバ登録情報-04 内線 ID”、“02 サーバ登録情報-05 内線番号”および“02 サーバ登録情報-06 ユーザ ID”の設定により決定されます。

内線 ID、内線番号、ユーザ ID の設定値と SIP メッセージ(to, from, contact ヘッダー)とダイジェスト認証の認証 ID の出力値の関係は、次の表の通りとなります。

●内線 ID、内線番号、ユーザ ID の設定値と SIP メッセージ(to, from, contact ヘッダー)、ダイジェスト認証の認証 ID の出力値の対応表

設定値			出力値	
内線 ID(注1)	内線番号	ユーザ ID	SIP メッセージ (to, from, contact ヘッダー) (注2)	ダイジェスト認証の 認証 ID(注3)
設定なし	設定あり	設定なし	内線番号	内線番号
設定あり		設定あり		ユーザ ID
設定あり (注4)		設定なし	内線 ID + 内線番号	内線 ID + 内線番号
		設定あり		ユーザ ID

・内線 ID、内線番号およびユーザ ID の設定方法については、“5. 1 データ設定の方法(保守者モード・ユーザモード) ●保守者モードでのデータ設定”および“8. 1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名 ●保守者モードの設定項目”を、それぞれ参照してください。

注1: サーバレジスト時の REGISTER メッセージ(to, from, contact ヘッダー)と発着信時の INVITE メッセージ(to, from, contact ヘッダー)の先頭に付加します。下記の(例)を参照してください。

英字の使用がないサーバの場合は、内線 ID の入力は不要になります。

注2: SIP メッセージ(to, from, contact ヘッダー)とは、SIP メッセージの to ヘッダー、from ヘッダー、contact ヘッダーの@左側部分(例)abcde1234@xxxx.jp のことを意味します。

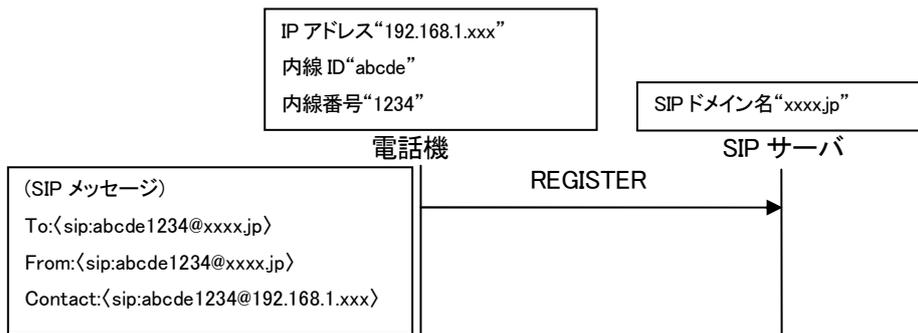
注3: ダイジェスト認証の認証 ID とは、SIP サーバに認証する時に使う認証 ID のことを意味します。

注4: 内線 ID を設定して運用する場合、サーバによっては代表着信、ラインキー着信が利用できない場合があります。

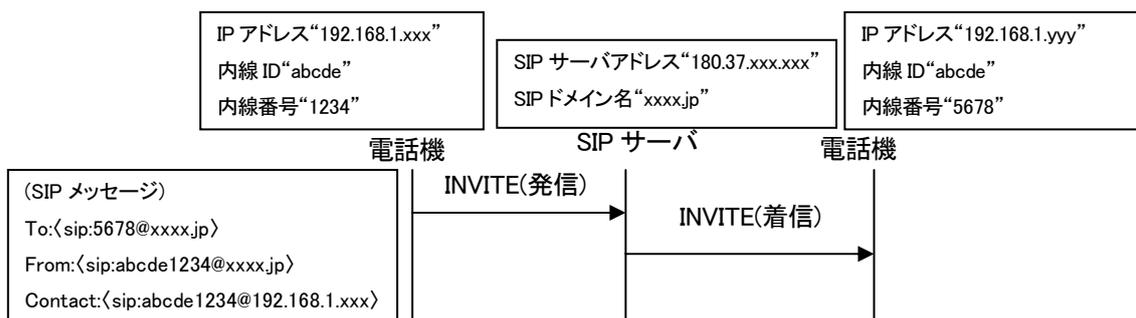
(例)内線 ID(abcde)+内線番号(1234)、ユーザ ID(abcde1234)で設定した場合下記の SIP メッセージとなります。

設定例を参考に出力値を決定してください。

・サーバレジスト時の REGISTER メッセージ



・発信時の INVITE メッセージ



8. 付録

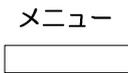
8.7 ハンズフリー送話レベル調整、ハンズフリー受話レベル調整

本設定はハンズフリー通話時において、相手からの音声が大きすぎるまたは小さすぎる場合、電話機がハウリングする場合、相手側から音声が大きすぎるまたは小さすぎると言われた場合に設定してください。

お話になる声の大きさと本体の距離に合わせて送話音量、受話音量を調整することができます。

次の操作でハンズフリー通話時の送話レベル調整及びハンズフリー通話時の受話レベル調整をすることができます。設定画面を表示し、画面に従って必要な項目を設定します。

(ハンズフリー受話レベルを調整する場合はスピーカ受話の音量を標準にしてから調整してください。)

	<p>手順1:待機状態から[メニュー]ボタンを押すと、「ユーザモード」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 591 1123 808"><tr><td>データ設定</td></tr><tr><td>01 表示設定</td></tr><tr><td>02 通知音設定</td></tr><tr><td>03 発信機能設定</td></tr><tr><td>04 着信機能設定</td></tr><tr><td>05 着信音設定</td></tr></table>	データ設定	01 表示設定	02 通知音設定	03 発信機能設定	04 着信機能設定	05 着信音設定
データ設定							
01 表示設定							
02 通知音設定							
03 発信機能設定							
04 着信機能設定							
05 着信音設定							
	<p>手順2:次に、ダイヤルボタンで[#][#][*]と押すと、「保守者モード」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 927 1123 1144"><tr><td>データ設定</td></tr><tr><td>01 ネットワーク情報</td></tr><tr><td>02 サーバ登録情報</td></tr><tr><td>03 SIP制御情報</td></tr><tr><td>04 発信機能設定</td></tr><tr><td>05 着信機能設定</td></tr></table>	データ設定	01 ネットワーク情報	02 サーバ登録情報	03 SIP制御情報	04 発信機能設定	05 着信機能設定
データ設定							
01 ネットワーク情報							
02 サーバ登録情報							
03 SIP制御情報							
04 発信機能設定							
05 着信機能設定							
	<p>手順3:ダイヤルボタンで[0][8]と押すと、「音声通信機能設定」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 1263 1123 1480"><tr><td>音声通信機能設定</td></tr><tr><td>01 音声圧縮種別</td></tr><tr><td>02 RTP送信周期</td></tr><tr><td>03 揺らぎ吸収時間</td></tr><tr><td>04 PB信号送出時間</td></tr><tr><td>05 PB信号休止時間</td></tr></table>	音声通信機能設定	01 音声圧縮種別	02 RTP送信周期	03 揺らぎ吸収時間	04 PB信号送出時間	05 PB信号休止時間
音声通信機能設定							
01 音声圧縮種別							
02 RTP送信周期							
03 揺らぎ吸収時間							
04 PB信号送出時間							
05 PB信号休止時間							
	<p>手順4:ハンズフリー送話レベル調整をする場合はダイヤルボタンで[2][0]、ハンズフリー受話レベル調整をする場合はダイヤルボタンで[2][1]と押すと、それぞれ「ハンズフリー送話レベル調整」、「ハンズフリー受話レベル調整」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 1688 1123 1906"><tr><td>ハンズフリー送話レベル調整</td></tr><tr><td>2</td></tr></table> <p>・上記は「ハンズフリー送話レベル調整」の設定画面です。</p>	ハンズフリー送話レベル調整	2				
ハンズフリー送話レベル調整							
2							

(次ページに続く)

8. 付録

クリア/戻る



1
あ

2
か ABC

3
さ DEF

4
た GHI

5
な JKL

6
は MNOP

7
ま PQRS

8
や TUV

9
ら WXYZ

✳
..

0
ワ 記号

スタート

手順5: [クリア/戻る]ボタンを押して、現在の設定値を消し、ダイヤルボタンで設定値を入力し、[設定/決定]ボタンを押します。

ハンズフリー送話レベル調整

ハンズフリー送話レベル調整

4

手順6: 設定が完了すると、「設定しました」のメッセージが表示されます。

ハンズフリー送話レベル調整

4
設定しました

再度、[設定/決定]ボタン及び[クリア/戻る]ボタンを押すと、「音声通信機能設定」の設定画面が表示されます。

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《音声通信機能設定》					
08	20	—	ハンズフリー送話レベル調整 <hfsnd_level>	ハンズフリー通話時の送話レベルを指定します 【設定範囲】 (小さい)0~4(大きい)	2
	21	—	ハンズフリー受話レベル調整 <hfrcv_level>	ハンズフリー通話時の受話レベルを指定します 【設定範囲】 (小さい)0~4(大きい)	2

お知らせ

次の事項は、本製品を取り扱ううえでの注意事項です。

- 次の場合、スピーカからの音が途切れることがあります。
 - ・相手のお話が終わらないうちに、こちらから話しかけたとき。
 - ・相手と同時に話し始めたとき。
 - ・周囲の騒音が大きい場所に置いたとき。
- 内蔵マイクの集音範囲は前方約 50cm です。
- 本製品には音質を改善する機能はありません。スピーカからの音質はご使用になる回線の品質や通信機器に依存します。
- より快適なハンズフリー通話のために、ハンズフリー通話を行う部屋の響きが大きい場合は、壁面にカーテンを配するなどの吸音対策をすると明瞭度が向上し、快適な通話が行えます。

お願い

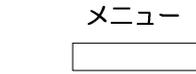
次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- 本設定については、通信システムの管理者や工事者のみ公開する内容となります。ユーザ様へは公開しないでください。
- ハンズフリー通話時は次の点に注意してください。
 - ・マイクの前に物を置かないでください。
 - ・マイクを手で覆わないでください。
- 使い方によってハウリング(ピーと大きな音が鳴る)が発生することがあります。ハウリングが発生した場合は次の動作を行ってください。
 - ・マイクから 20 cm 以上離れてください。
 - ・ハウリングが発生しないスピーカ音量で使用してください。部屋の響きの大きさによっては十分なスピーカ音量が出せない場合があります。
- ハンズフリー通話は本設定初期値の設定で電話機の正面から 50cm 離れた位置での使用を推奨しております。

8. 付録

8.8 LCD 表示モードの設定

本電話機はご使用になる環境によって LCD の表示がちらつく場合がございます。
本設定は LCD の表示がちらつく場合に現在の設定値から変更してください。

	<p>手順1:待機状態から[メニュー]ボタンを押すと、「ユーザモード」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 412 1123 624"><tr><td>データ設定</td></tr><tr><td>01 表示設定</td></tr><tr><td>02 通知音設定</td></tr><tr><td>03 発信機能設定</td></tr><tr><td>04 着信機能設定</td></tr><tr><td>05 着信音設定</td></tr></table>	データ設定	01 表示設定	02 通知音設定	03 発信機能設定	04 着信機能設定	05 着信音設定
データ設定							
01 表示設定							
02 通知音設定							
03 発信機能設定							
04 着信機能設定							
05 着信音設定							
	<p>手順2:次に、ダイヤルボタンで[#][#][*]と押すと、「保守者モード」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 745 1123 958"><tr><td>データ設定</td></tr><tr><td>01 ネットワーク情報</td></tr><tr><td>02 サーバ登録情報</td></tr><tr><td>03 SIP 制御情報</td></tr><tr><td>04 発信機能設定</td></tr><tr><td>05 着信機能設定</td></tr></table>	データ設定	01 ネットワーク情報	02 サーバ登録情報	03 SIP 制御情報	04 発信機能設定	05 着信機能設定
データ設定							
01 ネットワーク情報							
02 サーバ登録情報							
03 SIP 制御情報							
04 発信機能設定							
05 着信機能設定							
	<p>手順3:ダイヤルボタンで[9][9]と押すと、「保守」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 1037 1123 1249"><tr><td>保守</td></tr><tr><td>01 WEB ハードウェア初期化</td></tr><tr><td>02 データ初期化</td></tr><tr><td>03 MAC アドレス表示</td></tr><tr><td>04 接続確認</td></tr><tr><td>05 FTP ログインハードウェア</td></tr></table>	保守	01 WEB ハードウェア初期化	02 データ初期化	03 MAC アドレス表示	04 接続確認	05 FTP ログインハードウェア
保守							
01 WEB ハードウェア初期化							
02 データ初期化							
03 MAC アドレス表示							
04 接続確認							
05 FTP ログインハードウェア							
	<p>手順4:ダイヤルボタンで[2][3]と押すと、「LCD 表示モード」の設定画面が表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="699 1364 1123 1576"><tr><td>LCD 表示モード</td></tr><tr><td>モード 0</td></tr><tr><td>0 モード 0</td></tr><tr><td>1 モード 1</td></tr></table>	LCD 表示モード	モード 0	0 モード 0	1 モード 1		
LCD 表示モード							
モード 0							
0 モード 0							
1 モード 1							
	<p>手順5:[△(音量)]ボタンまたは[▽(音量)]ボタンで設定する項目を選択し、[設定/決定]ボタンを押します。</p> <table border="1" data-bbox="699 1727 1123 1939"><tr><td>LCD 表示モード</td></tr><tr><td>モード 0</td></tr><tr><td>0 モード 0</td></tr><tr><td>1 モード 1</td></tr></table>	LCD 表示モード	モード 0	0 モード 0	1 モード 1		
LCD 表示モード							
モード 0							
0 モード 0							
1 モード 1							

(次ページに続く)

8. 付録

手順6: 設定が完了すると、「設定しました」のメッセージが表示されます。

LCD 表示モード

モード 1
設定しました

再度、[設定/決定]ボタン及び[クリア/戻る]ボタンを押すと、「保守」の設定画面が表示されます。

コマンド番号		区分・設定項目・<タグ名>	パラメータ内容・範囲	初期値	
《保守》					
99	23	—	LCD 表示モード <lcd_mode>	LCD の表示モードを指定します 【設定範囲】 0:モード0 1:モード1	0:モード0

お知らせ

次の事項は、本製品を取り扱ううえでの注意事項です。

- 本設定を変更しても LCD にちらつきが見える場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合わせください。

お願い

次の事項を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能の停止をまねく内容を示しています。

- 本設定については、通信システムの管理者や工事者のみ公開する内容となります。ユーザーへは公開しないでください。

8. 付録

8.9 トラブルシュート

●相手に繋がらない

① 待機状態(送受器を下ろした状態)で、LCDにカレンダーや時刻等が表示されていますか？

はい ↓ いいえ

(PoE使用時)
 LAN配線を他の電話機や給電HUBの他のポートにつなぎかえてみます。
 給電HUBの設定を確認します。(機種によっては、「給電を有効にする」設定が必要です。)
 (別売品のAC電源アダプタ使用時)
 コンセントや AC 電源プラグが正しく接続されているか確認します。
 別のAC電源アダプタや電話機につなぎかえてみます。
 ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

② [△(音量)]ボタンまたは[▽(音量)]ボタンを押したとき、ボリューム確認音が聞こえますか？

はい ↓ いいえ

電源を再投入して、電話機の再起動を試みます。
 ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

③ 送受器を上げた際、発信音が聞こえますか？ またHUB側のLINKランプは点灯または点滅していますか？

はい ↓ いいえ

HUBや各ネットワーク機器の稼働状態や接続を確認します。
 HUBの他のポートにつなぎかえたり、LANケーブルを交換してみます。
 Etherインタフェースに関する設定を確認します。
 ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

④ LCDに“レジストラサーバ未登録”が表示されていますか？

いいえ ↓ はい

データ設定の「ネットワーク情報」及び「サーバ登録情報」の内容を再確認します。
 他の電話機も同様の表示がある場合、SIPサーバ側の稼働状況や必要なデータ設定を確認します。
 ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

⑤ 発信した後、呼出音(RBT)は聞こえますか？ また相手からの着信に応答できますか？

はい ↓ いいえ

話中音(BT)となった場合、LCDに「切断理由」や「エラーコード」が表示されます。下段を参考に対処します。
 ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

●切断理由と対処の例

表示内容(注1)	相手の状態	対応
> 相手ビジー	通話中など、電話を受けられない状態を示します。	・しばらく待ってからかけ直してください。
> 相手応答なし	電源が入っていないか、ネットワークに接続されていない等、SIPサーバが認識していない相手にかけたことを示します。	・電話番号を確認してください。 ・相手端末の接続やデータ設定を確認してください。 ・頻繁に表示される場合は、操作とエラーの表示内容(コード)を連絡し、指示を受けてください。
> その他エラー	上記以外の障害を示します。	・しばらく待ってからかけ直してください。 ・頻繁に表示される場合は、操作とエラーの表示内容(コード)を連絡し、指示を受けてください。

注1: エラー状態に応じたエラーコードが、併せて表示されることがあります。

8. 付録

●プリセットダイヤルで発信ができない

(例)プリセットダイヤルで送受器をあげた時内線発信ができない。

① 外線捕捉プレフィックス(外線発信特番)の外線捕捉特番入力が“なし”になっていますか？

はい

いいえ

- HUBや各ネットワーク機器の稼働状態や接続を確認します。
 - HUBの他のポートにつなぎかえたり、LANケーブルを交換してみます。
 - Etherインタフェースに関する設定を確認します。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

②内線番号認識パターンの設定は登録されていますか？

はい

いいえ

- 内線番号認識パターンを設定してください。
- ⇒設定方法については、“**8.1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名**”、“**5.1 データ設定の方法 (保所有者モード・ユーザモード)**”を参照して使用したい内線番号の認識パターンを設定してください。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

- 「内線認識番号」と「内線認識桁数」が発信先の内線番号に一致しているか確認します。
 - HUBや各ネットワーク機器の稼働状態や接続を確認します。
 - HUBの他のポートにつなぎかえたり、LANケーブルを交換してみます。
 - Etherインタフェースに関する設定を確認します。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

8. 付録

●ハンズフリー通話時の音声が悪い

① ハンズフリー通話時に相手からの音声が大きすぎる、または小さすぎる。

- 電話機のスピーカ音量を調整してください。
- 電話機のスピーカ音量を調整しても大きい、または小さいときは「ハンズフリー受話レベル調整」にてレベルを調整してください。
- ⇒設定方法については、「8.7 ハンズフリー送話レベル調整、ハンズフリー受話レベル調整」を参照してください。
- ⇒ハンズフリー受話レベルを調整する場合はスピーカ受話の音量を標準にしてから調整してください。
- ⇒ハンズフリー受話レベル調整後はスピーカ受話の音量で調整してください。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

② ハンズフリー通話時に電話機にハウリングが発生する。

- 電話機のスピーカ音量を下げてください。
- 電話機のスピーカ音量を下げててもハウリングが発生しているときは「ハンズフリー受話レベル調整」にてレベルを下げてください。
- ⇒設定方法については、「8.7 ハンズフリー送話レベル調整、ハンズフリー受話レベル調整」を参照してください。
- ⇒ハンズフリー受話レベルを調整する場合はスピーカ受話の音量を標準にしてから調整してください。
- ⇒ハンズフリー受話レベル調整後はスピーカ受話の音量で調整してください。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

③ ハンズフリー通話時に相手側から声が大きすぎる、または小さすぎると言われる。

- 「ハンズフリー送話レベル調整」にてレベルを調整してください。
- ⇒設定方法については、「8.7 ハンズフリー送話レベル調整、ハンズフリー受話レベル調整」を参照してください。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

●LCDの画面がちらついて見える

- 「LCD表示モード」の設定値を変更してください。
- ⇒設定方法については、「8.8 LCD表示モードの設定」を参照してください。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

●着信時、発信者情報が正常に表示されない

- 使用するサーバによっては発信者情報が正常に表示できない場合があります。その場合は「ディスプレイネーム表示」の設定値を“表示しない”に設定してください。
- ⇒設定方法については、「8.1 パラメータ詳細と設定ファイルのタグ名」、「5.1 データ設定の方法（保守者モード・ユーザーモード）」を参照してください。
- ⇒解決しない場合は、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。

・その他の障害については、販売店もしくは弊社のサービス・保守窓口にお問合せください。